

科目コード	科目授業名	開講年度	学期	授業区分	曜日時限	授業代表教員氏名	ページ数
10030	運動と健康 c	2026年度	後期	週間授業	木3	平野 陸	3
10030	運動と健康 d	2026年度	後期	週間授業	木4	平野 陸	4
10036	日本国憲法 a	2026年度	前期	週間授業	木4	古屋 等	5
10036	日本国憲法 b	2026年度	後期	週間授業	月1	古屋 等	6
10036	日本国憲法 c	2026年度	後期	週間授業	木1	古屋 等	7
10036	日本国憲法 d	2026年度	後期	週間授業	木2	古屋 等	8
10036	日本国憲法 e	2026年度	後期	週間授業	木3	古屋 等	9
10051	キリスト教の精神と文化II a	2026年度	後期	週間授業	金2	小幡 幸和	10
10051	キリスト教の精神と文化II b	2026年度	後期	週間授業	金2	野口 良哉	11
10051	キリスト教の精神と文化II e	2026年度	後期	週間授業	金2	鈴木 光	13
10051	キリスト教の精神と文化II g	2026年度	後期	週間授業	金4	野口 良哉	14
10051	キリスト教の精神と文化II j	2026年度	後期	週間授業	金4	鈴木 光	16
10051	キリスト教の精神と文化II l	2026年度	後期	週間授業	金5	野口 良哉	17
10051	キリスト教の精神と文化II o	2026年度	後期	週間授業	金5	鈴木 光	19
10113	心理学 b	2026年度	前期	週間授業	火3	林 雅子	20
10113	心理学 c	2026年度	後期	週間授業	火3	林 雅子	22
10117	歴史学	2026年度	後期	週間授業	金1	鈴木 敦	24
10127	グローバリゼーションを考える	2026年度	後期	週間授業	金5	川又 啓蔵	25
10130	国際経済と暮らし	2026年度	後期	週間授業	金3	浅川 あや子	27
10131	教育と人権	2026年度	前期	週間授業	木3	古屋 等	28
10133	共に生きる	2026年度	前期	週間授業	木2	池田 幸也	29
10134	ジェンダーの現在 a	2026年度	前期	週間授業	金3	中島 美那子／石塚 美也	30
10134	ジェンダーの現在 b	2026年度	後期	週間授業	水3	友野 清文	31
10135	家族を考える	2026年度	前期	週間授業	火4	友野 清文	32
10137	データサイエンスI c	2026年度	前期	週間授業	木1	小貫 哲平	33
10137	データサイエンスI d	2026年度	前期	週間授業	木2	小貫 哲平	35
10140	地域を学ぶ a	2026年度	前期	週間授業	金5	川又 啓蔵	37
10144	生命科学 a	2026年度	前期	週間授業	木4	野澤 恵	39
10144	生命科学 b	2026年度	後期	週間授業	月5	野澤 恵	40
10147	食といのち	2026年度	前期	週間授業	月5	助川 宏子	41
10148	地球環境と人間 a	2026年度	後期	週間授業	月2	大塚 雅哉	43
10148	地球環境と人間 b	2026年度	後期	週間授業	月3	大塚 雅哉	44
10150	災害と人間 a	2026年度	前期	週間授業	金4	川又 啓蔵	45
10150	災害と人間 b	2026年度	前期	週間授業	金6	川又 啓蔵	47
10150	災害と人間 c	2026年度	後期	週間授業	金4	川又 啓蔵	49
10151	科学技術の現在	2026年度	前期	週間授業	金2	谷 尚樹／荻津 透	51
10153	宇宙の探究 a	2026年度	前期	週間授業	月2	池田 博／荻津 透	52
10153	宇宙の探究 b	2026年度	前期	週間授業	木5	野澤 恵	53
10164	栄養と食生活	2026年度	後期	週間授業	月5	助川 宏子	54
10166	データサイエンスII c	2026年度	後期	週間授業	木1	小貫 哲平	56
10166	データサイエンスII d	2026年度	後期	週間授業	木2	小貫 哲平	58
12041	観光英語 a	2026年度	前期	週間授業	月3	澤井 萌	60
12041	観光英語 b	2026年度	前期	週間授業	水5	澤井 萌	62
12079	児童文学(英語圏)	2026年度	後期	週間授業	木1	菅野 弘久	64
12165	ホスピタリティ論	2026年度	後期	週間授業	水5	澤井 萌	65
13554	地域社会研究I	2026年度	前期	週間授業	木2	鈴木 克彦	67
13555	地域社会研究II	2026年度	後期	週間授業	木2	鈴木 克彦	68
14133	日本語学A	2026年度	前期	週間授業	水3	三谷 絵里	69
14134	日本語学B	2026年度	後期	週間授業	水3	三谷 絵里	70
<del>14134</del>	<del>民俗学</del>	<del>2026年度</del>	<del>前期</del>	<del>週間授業</del>	<del>金4</del>	<del>清水 博之</del>	<del>71</del>
14206	日本史A	2026年度	前期	週間授業	月1	藤野 真拳	73
14207	日本史B	2026年度	後期	週間授業	月1	藤野 真拳	74
14238	ボランティア論	2026年度	前期	週間授業	水2	鈴木 晋介	75

聴講不可になりました

14249	法学 a	2026年度 前期	週間授業	木1	古屋 等	.....	76
14249	法学 b	2026年度 前期	週間授業	木2	古屋 等	.....	77
20003	生命と倫理	2026年度 前期	週間授業	水6	北 夏子	.....	78
20004	人間と哲学	2026年度 後期	週間授業	水6	北 夏子	.....	80
20006	人権と教育	2026年度 後期	週間授業	月2	古屋 等	.....	82
20013	社会学	2026年度 前期	週間授業	木4	北 夏子	.....	83
21143	高齢者福祉I	2026年度 前期	週間授業	水3	池田 幸也	.....	84
21144	高齢者福祉II	2026年度 後期	週間授業	水3	池田 幸也	.....	85
21158	刑事司法と福祉B	2026年度 後期	週間授業	木1	高橋 活夫	.....	86
41042	マーケティング論II	2026年度 後期	週間授業	火1	田口 尚史	.....	88
41043	流通システム論	2026年度 前期	週間授業	火1	田口 尚史	.....	89
41044	流通経営論	2026年度 後期	週間授業	火3	田口 尚史	.....	90
41050	会社簿記論	2026年度 後期	週間授業	火2	竹内 翼	.....	91
41063	金融論	2026年度 前期	週間授業	金4	浅川 あや子	.....	93
41064	国際金融論	2026年度 後期	週間授業	金4	浅川 あや子	.....	95
41085	公共経営論	2026年度 前期	週間授業	月4	野口 通	.....	97
41102	国際経済論	2026年度 前期	週間授業	金3	浅川 あや子	.....	98
41131	企業倫理	2026年度 後期	週間授業	水3	北 夏子	.....	100
41133	中小企業経営論	2026年度 前期	週間授業	火5	椎名 則夫	.....	102

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 c				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職 保育	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。</p>					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することを目標とする。				
評価方法	期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	各授業時のミニレポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要の説明</p> <p>第2回：運動と体力(1)</p> <p>第3回：運動と体力(2)</p> <p>第4回：体力の測定</p> <p>第5回：運動と脳機能</p> <p>第6回：運動経験と身体機能</p> <p>第7回：加齢と体力</p> <p>第8回：運動と生活習慣病(1)</p> <p>第9回：運動と生活習慣病(2)</p> <p>第10回：運動と筋</p> <p>第11回：運動とトレーニング</p> <p>第12回：運動とエネルギー</p> <p>第13回：運動と疲労</p> <p>第14回：運動と環境</p> <p>第15回：まとめ</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。</p> <p>授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。</p> <p>参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 d				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職 保育	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。</p>					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することを目標とする。				
評価方法	期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	各授業時のミニレポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要の説明</p> <p>第2回：運動と体力(1)</p> <p>第3回：運動と体力(2)</p> <p>第4回：体力の測定</p> <p>第5回：運動と脳機能</p> <p>第6回：運動経験と身体機能</p> <p>第7回：加齢と体力</p> <p>第8回：運動と生活習慣病(1)</p> <p>第9回：運動と生活習慣病(2)</p> <p>第10回：運動と筋</p> <p>第11回：運動とトレーニング</p> <p>第12回：運動とエネルギー</p> <p>第13回：運動と疲労</p> <p>第14回：運動と環境</p> <p>第15回：まとめ</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。</p> <p>授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。</p> <p>参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 a				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょう。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 近代憲法の意義</li> <li>3 現代憲法の特質</li> <li>4 国民主権の原理</li> <li>5 前文と平和主義</li> <li>6 第9条と戦争放棄</li> <li>7 基本的人権の観念</li> <li>8 基本的人権の種類</li> <li>9 基本的人権の限界</li> <li>10 精神的自由権Ⅰ</li> <li>11 精神的自由権Ⅱ</li> <li>12 経済的自由権Ⅰ</li> <li>13 経済的自由権Ⅱ</li> <li>14 受益権・社会権</li> <li>15 違憲審査</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。前学期開講の「日本国憲法」はこの科目のためのため、履修希望者が多くなることが予想されます。履修調整の可能性が高くなりますので、1年生や教員免許取得のために日本国憲法の履修が必要でない方は、後学期開講の「日本国憲法b～e」を履修してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 b				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 近代憲法の意義</li> <li>3 現代憲法の特質</li> <li>4 国民主権の原理</li> <li>5 前文と平和主義</li> <li>6 第9条と戦争放棄</li> <li>7 基本的人権の観念</li> <li>8 基本的人権の種類</li> <li>9 基本的人権の限界</li> <li>10 精神的自由権Ⅰ</li> <li>11 精神的自由権Ⅱ</li> <li>12 経済的自由権Ⅰ</li> <li>13 経済的自由権Ⅱ</li> <li>14 受益権・社会権</li> <li>15 違憲審査</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 c				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょう。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 近代憲法の意義</li> <li>3 現代憲法の特質</li> <li>4 国民主権の原理</li> <li>5 前文と平和主義</li> <li>6 第9条と戦争放棄</li> <li>7 基本的人権の観念</li> <li>8 基本的人権の種類</li> <li>9 基本的人権の限界</li> <li>10 精神的自由権Ⅰ</li> <li>11 精神的自由権Ⅱ</li> <li>12 経済的自由権Ⅰ</li> <li>13 経済的自由権Ⅱ</li> <li>14 受益権・社会権</li> <li>15 違憲審査</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 d				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 近代憲法の意義</li> <li>3 現代憲法の特質</li> <li>4 国民主権の原理</li> <li>5 前文と平和主義</li> <li>6 第9条と戦争放棄</li> <li>7 基本的人権の観念</li> <li>8 基本的人権の種類</li> <li>9 基本的人権の限界</li> <li>10 精神的自由権Ⅰ</li> <li>11 精神的自由権Ⅱ</li> <li>12 経済的自由権Ⅰ</li> <li>13 経済的自由権Ⅱ</li> <li>14 受益権・社会権</li> <li>15 違憲審査</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 e				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 近代憲法の意義</li> <li>3 現代憲法の特質</li> <li>4 国民主権の原理</li> <li>5 前文と平和主義</li> <li>6 第9条と戦争放棄</li> <li>7 基本的人権の観念</li> <li>8 基本的人権の種類</li> <li>9 基本的人権の限界</li> <li>10 精神的自由権Ⅰ</li> <li>11 精神的自由権Ⅱ</li> <li>12 経済的自由権Ⅰ</li> <li>13 経済的自由権Ⅱ</li> <li>14 受益権・社会権</li> <li>15 違憲審査</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II a				
担当者	小幡 幸和				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等		E Pe Pc C W F N M L	
関連資格			AL要素	08 協同学修 11 討論 16 振り返り課題と応答	
授業の概要					
<p>・聖書やキリスト教精神の概要を解説し、それらが現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つでもあることを学びます。</p> <p>・キリスト教の観点から現代世界の諸問題（いのちの大切さ、利他の精神、差別、社会の分断、暴力と平和、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察します。</p> <p>・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の聖書的・歴史的・文化的意味を学びます。</p> <p>・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。</p>					
キーワード					
聖書、隣人愛、世界の著名人による聖書引用、利他、対話、キリスト教と医療、キリスト教と時間概念、いのちの大切さ、アフリカ精神とキリスト教、アメリカ合衆国の社会問題とキリスト教、暴力と平和、キリスト教の祝祭					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、嚴重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 オリエンテーション・序論：キリスト教精神とグローバル・リテラシー</p> <p>【第02回】 聖書の言葉とaltruism（利他主義）</p> <p>【第03回】 聖書の言葉を引用するスポーツ選手</p> <p>【第04回】 キリスト教と医療</p> <p>【第05回】 いのちの大切さ</p> <p>【第06回】 アフリカ精神とキリスト教</p> <p>【第07回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（1）</p> <p>【第08回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（2）</p> <p>【第09回】 キリスト教と対話の精神（宗教間対話を例に）</p> <p>【第10回】 キリスト教と時間概念</p> <p>【第11回】 聖書にみる試練の意味</p> <p>【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解</p> <p>【第13回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解</p> <p>【第14回】 クリスマスの様々な意味</p> <p>【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り</p>
使用テキスト	<p>定期試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>購入必須のテキストはありません。</li> <li>授業で使うレジュメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。</li> <li>教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。</li> </ul>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習として、各授業回のテーマについて調べてください（60分）。</li> <li>復習として、授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください（60分）。</li> <li>参考書：Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。</li> <li>他の参考書として『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。</li> </ul>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。</li> <li>デバイスを持参してください。</li> </ul>

科目コード	10051	科目ナンバリング	主な使用言語	日本語	
授業名	キリスト教の精神と文化II b				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	基本的に17.発問と回答だが、部分的に09.実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係				
▼知識・技能				
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%	
▼思考力・判断力・表現力				
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%	
▼学修に主体的に取り組む態度				
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼実践的ボランティア				
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼公正性				
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。				
評価割合	0%			
▼その他				
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。				
評価割合	0%			

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聖書の構成／聖書の原語</li> <li>2 聖書の年代／聖書の主題</li> <li>3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)</li> <li>4 聖書の歴史的流れ(History&amp;Story)</li> <li>5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と「十戒」</li> <li>6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)</li> <li>7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)</li> <li>8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)</li> </ol> <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
定期試験	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論
	<ol style="list-style-type: none"> <li>10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)</li> <li>11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)</li> <li>12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[ ]内はテーマ</li> <li>13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]</li> <li>14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]</li> <li>15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]</li> </ol>
使用テキスト	<p>定期的試験</p> <p>&lt;授業パターン&gt; 基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う</li> <li>2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす</li> <li>3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く</li> <li>4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する</li> </ol> <p>・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。 ・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。</p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール (ng448@icc.ac.jp) でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II e				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。          入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。          *講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実的な適用についても触れていきます。          *AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちま</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 *おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパー、授業態度ほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 *いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>リアクションペーパー内容や授業態度などから、積極的に参加している様子が見られれば随時加点評価します。          逆に、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象になりえます。          授業に関係ない言動（私語、動画やサイト視聴、あからさまな内職など）や不正行為は特にしないように気をつけましよう。</p>					
評価割合	0% *ただし、総合評価からの加減点はある				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となりえます。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 イエス・キリストの奇跡 第6回 エリエリレマサバクタニ 第7回 愛とは？ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク ～学園の信仰的なバックグラウンドを学ぶ（キアラ館&学園記念館訪問）～ 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 *旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジюмеや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。 参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどにご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング	主な使用言語	日本語	
授業名	キリスト教の精神と文化II g				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係				
▼知識・技能				
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%	
▼思考力・判断力・表現力				
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%	
▼学修に主体的に取り組む態度				
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼実践的ボランティア				
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼公正性				
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。				
評価割合	0%			
▼その他				
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。				
評価割合	0%			

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聖書の構成／聖書の原語</li> <li>2 聖書の年代／聖書の主題</li> <li>3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)</li> <li>4 聖書の歴史的流れ(History&amp;Story)</li> <li>5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と「十戒」</li> <li>6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)</li> <li>7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)</li> <li>8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)</li> </ol> <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
定期試験	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論
	<ol style="list-style-type: none"> <li>10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)</li> <li>11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)</li> <li>12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[ ]内はテーマ</li> <li>13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]</li> <li>14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]</li> <li>15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]</li> </ol>
使用テキスト	<p>＜授業パターン＞</p> <p>基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う</li> <li>2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす</li> <li>3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く</li> <li>4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する</li> </ol> <p>・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。</p> <p>・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。</p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール (ng448@icc.ac.jp) でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II j				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。          入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。          * 講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実的な適用についても触れていきます。          * AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちま</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 * おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパー、授業態度ほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 * いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>リアクションペーパー内容や授業態度などから、積極的に参加している様子が見られれば随時加点評価します。          逆に、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象になりえます。          授業に関係ない言動（私語、動画やサイト視聴、あからさまな内職など）や不正行為は特にしないように気をつけましよう。</p>					
評価割合	0% *ただし、総合評価からの加減点はある				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となりえます。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 イエス・キリストの奇跡 第6回 エリエリレマサバクタニ 第7回 愛とは？ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク ～学園の信仰的なバックグラウンドを学ぶ（キアラ館&学園記念館訪問）～ 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 * 旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） * 新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジюмеや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。 参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどにご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング	主な使用言語	日本語	
授業名	キリスト教の精神と文化II Ⅰ				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係				
▼知識・技能				
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%	
▼思考力・判断力・表現力				
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。			
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%	
▼学修に主体的に取り組む態度				
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼実践的ボランティア				
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				
評価割合	0%			
▼公正性				
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。				
評価割合	0%			
▼その他				
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。				
評価割合	0%			

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聖書の構成／聖書の原語</li> <li>2 聖書の年代／聖書の主題</li> <li>3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)</li> <li>4 聖書の歴史的流れ(History&amp;Story)</li> <li>5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と「十戒」</li> <li>6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)</li> <li>7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)</li> <li>8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)</li> </ol> <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
定期試験	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論
	<ol style="list-style-type: none"> <li>10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)</li> <li>11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)</li> <li>12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[ ]内はテーマ</li> <li>13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]</li> <li>14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]</li> <li>15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]</li> </ol>
使用テキスト	定期試験
	<p>&lt;授業パターン&gt; 基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う</li> <li>2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす</li> <li>3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く</li> <li>4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する</li> </ol>
	・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。 ・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール (ng448@icc.ac.jp) でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II 。				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。          入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。          *講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実的な適用についても触れていきます。          *AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちま</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 *おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパー、授業態度ほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 *いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>リアクションペーパー内容や授業態度などから、積極的に参加している様子が見られれば随時加点評価します。          逆に、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象になりえます。          授業に関係ない言動（私語、動画やサイト視聴、あからさまな内職など）や不正行為は特にしないように気をつけましよう。</p>					
評価割合	0% *ただし、総合評価からの加減点はある				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となりえます。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 イエス・キリストの奇跡 第6回 エリエリレマサバクタニ 第7回 愛とは？ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク ～学園の信仰的なバックグラウンドを学ぶ（キアラ館&学園記念館訪問）～ 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 *旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジюмеや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。 参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどにご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 b				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なくないと思います。この授業では、人間の乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートキーワード					
生涯発達心理学, アイデンティティ, 発達段階, 対人関係					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況および回答内容によって判断する。 学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。 なお、授業中に私語を繰り返すなど、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為がみられた場合は、減点または嚴重注意の対象とする					
評価割合	30%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし					
評価割合	0%				

授業計画	【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か 授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。
	【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達 人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのようにしていくのかを段階ごとに学びます。
	【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達 人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。その生涯にわたる発達について考えていきます。
	【第4回】胎児・乳児期の発達 胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。
	【第5回】幼児期の発達 幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。
	【第6回】児童期の発達 学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。
	【第7回】青年期前期の発達 思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。
	【第8回】青年期後期の発達 アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。
	【第9回】成人期（成人前期）の発達 職業移行の難しさなど、青年から成人への発達の变化について考えます。
	【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。
	【第11回】老年期の発達

	<p>老年期における喪失と獲得について考えます。</p> <p>【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。</p> <p>【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。</p> <p>【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。</p> <p>【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。</p> <p>【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。</p>
使用テキスト	<p>なし</p> <p>事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。</p> <p>【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。また、次回の授業資料は事前に掲示するので、次回のテーマに関して図書館やインターネットを使って調べてみる、授業前までに資料に目を通しておくこと次回の授業の理解が早くなるでしょう(約30分)。授業後は、小レポートのフィードバックを受け、授業資料の内容を見返してノート整理をするなど、講義内容の理解を深めていただくようお願いします(約30分)。</p> <p>人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。</p> <p>【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。自分が興味を持ったテーマや授業内容で不明瞭だった部分について、文献を図書館で借りて読むなどして、知見を深めると良いでしょう。</p>
障がいのある履修者への対応	事前に学務部等へご連絡するようお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。
授業時間外の連絡手段	初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。
留意事項	<p>受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。</p> <p>また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡をお願いします。</p> <p>後期に開講される心理学Ⅰはこの授業と同一の内容です。なるべく人数が収まるよう、日程が調整可能な学生は後期の方を履修してください。</p> <p>抽選を行う際は初回授業前にIC-UNIPAでお知らせを掲示します。ご確認をお願いします。</p>

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 c				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なくないと思います。この授業では、人間の乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートキーワード					
生涯発達心理学, アイデンティティ, 発達段階, 対人関係					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況および回答内容によって判断する。 学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。 なお、授業中に私語を繰り返すなど、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為がみられた場合は、減点または嚴重注意の対象とする					
評価割合	30%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし					
評価割合	0%				

授業計画	【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か 授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。
	【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達 人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのようにしていくのかを段階ごとに学びます。
	【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達 人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。その生涯にわたる発達について考えていきます。
	【第4回】胎児・乳児期の発達 胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。
	【第5回】幼児期の発達 幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。
	【第6回】児童期の発達 学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。
	【第7回】青年期前期の発達 思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。
	【第8回】青年期後期の発達 アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。
	【第9回】成人期（成人前期）の発達 職業移行の難しさなど、青年から成人への発達の变化について考えます。
	【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。
	【第11回】老年期の発達

	<p>老年期における喪失と獲得について考えます。</p> <p>【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。</p> <p>【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。</p> <p>【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。</p> <p>【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。</p> <p>【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。</p>
使用テキスト	<p>なし</p> <p>事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。</p> <p>【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。また、次回の授業資料は事前に掲示するので、次回のテーマに関して図書館やインターネットを使って調べてみる、授業前までに資料に目を通しておくこと次回の授業の理解が早くなるでしょう(約30分)。授業後は、小レポートのフィードバックを受け、授業資料の内容を見返してノート整理をするなど、講義内容の理解を深めていただくようお願いします(約30分)。</p> <p>人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。</p> <p>【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。自分が興味を持ったテーマや授業内容で不明瞭だった部分について、文献を図書館で借りて読むなどして、知見を深めると良いでしょう。</p>
障がいのある履修者への対応	事前に学務部等へご連絡するようお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。
授業時間外の連絡手段	初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。
留意事項	<p>この授業は前期に開講されている心理学bと同一の内容になります。すでに心理学bを履修されている学生さんはこの授業を履修できませんので、ご注意ください。</p> <p>聴講生がおらず、受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。 また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡をお願いします。</p>

科目コード	10117	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	歴史学				
担当者	鈴木 敦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	16振り返りと要旨と応答 17発問と応答		
授業の概要					
この授業では、前半（第1講～第6講）でまず(1)「歴史的なものの見方・対し方」を学び、後半（第7講～第14講）で(2)「中国古代の具体的な歴史事象を例として、(1)がどのように機能しているか」を紹介・検証します。歴史小説やドラマさらにはネット上にあふれる歴史系の記述のような、フィクションや事実誤認が多々含まれる対象は勿論、アカデミックな歴史記述に関しても、「それはどのような研究によって究明されたのか」「かくしてどこまでは信頼でき、どの程度の危うさを内包しているのか」という、冷静で客観的なスタンスで向き合うことができるようになることを目指します。					
キーワード					
教科書とは何か、通説／新説、考古学／文献史学、中国古代、歴史（系）の記述に対するスタンス					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	歴史（系）記述の背景にある研究方法の特性を理解し、信頼性と不確実性の認識を踏まえて、冷静で客観的なスタンスで向き合うことができる。				
評価方法	授業中の課題、学期末のレポート課題	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	個別具体的な歴史事象に対して、その信憑性を適切に判断し、論理的に記述することができる。				
評価方法	授業中の課題、学期末のレポート課題	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしません。提示された事柄について独自に情報を集め日頃から思いを巡らしておくことが、自ずと「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」となって答案に反映されると考えます。 なお、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為が見られた場合は、評価割合に関わらず単位認定の対象外とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしません。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表やレポートの内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や単位認定の対象外とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1講：ガイダンス -この授業で目指すもの- 第2講：（歴史）教科書とは何か？(1) -教科書の背景を理解しよう- 第3講：（歴史）教科書とは何か？(2) -教科書の特性を踏まえて付き合いよう- 第4講：新説が生まれる時 -3つのパターンとその実例- 第5講：評価の多様さと困難さ -中国の190末～200前半を生きた3人を評価する- 第6講：歴史研究の手法 -考古学と文献史学(1) それぞれの特性、得手不得手- 第7講：書き手のスタンス -『史記』五帝本紀を例に- 第8講：考古学の「文化」とその動態 -新石器文化の発生と終焉- 第9講：「文化」と「王朝」の間 -考古学と文献史学(2) 協働とごちゃまぜ- 第10講：考古資料から見る集団のありよう -殷前期の城郭遺構- 第11講：定説と新説のせめぎ合い -安陽・小屯遺跡は殷墟ではない？- 第12講：甲骨文の「解読」 -無意識の陥穽- 第13講：青銅器から見る西周時代 -器から・銘文から- 第14講：断絶と継続 -新石器～秦帝国を通覧して- 第15講：まとめ
使用テキスト	教科書は使用しない。参考資料は全てMS-Teamsで共有するので、事前に個人の端末にダウンロードして授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業で指示された課題への取組や、配布資料や自らのノートを使った復習を行って下さい。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	まずはメールで対応します。アドレスは授業の際にお伝えします。 必要があれば、個別に日程調整して対面でも対応します。
留意事項	PCやタブレット等、資料の閲覧が可能な端末を持参して下さい。

科目コード	10127	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	グローバル化を考える				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
<p>田舎や都会などの違いに関係なく、本学が所在する茨城県を含め、私たちの日常生活において、細部にわたり「グローバル化」の影響を受けているといっても過言ではない。また、現代社会の姿を象徴する言葉の一つとなっており、当たり前に使われるようになって久しいが、その意味を的確に答えられる人はどれだけのだろうか。現代社会においては、あらゆる場面で、グローバル化のメリットを享受しているといっても過言ではない一方、「反グローバル化」や「反グローバルizm」といった言葉も飛び交うなど、本邦に限らず、世界各国で、そのデメリットや社会のひずみが顕在化し、社会の対立や分断を招いていることも事実である。さらに、ナショナリズムやポピュリズムの台頭、紛争（戦争）など軍事行動への発展を含めた地政学的リスクとなっており、政治・経済だけでなく、第二次大戦後の世界秩序や世界平和を脅かしかねない状態になっている。言い換えれば、「グローバル化によって、世界や社会、人々の暮らしや人生まで動かされている」とも捉えられる。</p> <p>授業では、歴史的・文化的背景から世界の動きだけでなく、日常生活や本県・茨城県ならではの影響といった目線を含め、「グローバル化」について「身近な存在」として学び考え、今後、社会を生きていく上での思考・判断能力をトレーニングできるようになることへ繋げる。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災減災（感染症対応を含む）など〕、企業経営者）を生かして、いわゆる「机上論」だけでなく、実際の社会現象に投影した話題に重きを置いた講義を進める。</p>					
キーワード					
グローバル化、グローバルizm、資本主義、市場経済、自由主義、ナショナリズム、ポピュリズム、格差、民主主義、エコロジ、文化、情報、デジタル化、DX、IOT、経済、SDGs、気候変動、環境、平和、戦争、軍事					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ基本的な知識等をもって、様々な社会事象等へ投影し、その解釈や考察をすることができる。				
評価方法	学則に定める出席規定を満たした上で提出された学期末課題	評価割合	100%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となる。よって、誤字脱字、執筆者が十分な理解を持たずに使用していると思われる文言等については、減点の対象となり得る。				
評価方法	学則に定める出席規定を満たした上で提出された学期末課題	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え等）を通して、自身の体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え等）を通して、グローバル化について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがある。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」「パクリ」）等については厳しく対応する（試験における不正行為への対応に準じる）。 なおAIの利用について否定しないが、一見体裁の良い文章等を生成できる反面、利用する側（執筆者本人）の資質が問われることとなるので、十分留意すること。（いわゆる「執筆者本人の知識や理解のレベルを超える内容、AI利用がバレバレ状態」と思われる場合					
評価割合	0%				
▼その他					
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行う。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は実施する。 学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容が、評価をする上でのキーワードとなるため、出席が不十分な場合、その執筆が困難となるので留意すること。					
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けている。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合がある。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション  【第2回】グローバルゼーションとは何か？  【第3回】グローバルゼーションの歴史-1 ～総論的俯瞰～  【第4回】グローバルゼーションの歴史-2 ～日本を中心とした俯瞰～  【第5回】グローバルゼーションと文化  【第6回】グローバルゼーションと政治  【第7回】グローバルゼーションと経済（世界経済）  【第8回】グローバルゼーションとテクノロジー  【第9回】グローバルゼーションが日本にもたらしたこと  【第10回】グローバルゼーションと「茨城県」  【第11回】コロナショックとグローバルゼーション  【第12回】グローバルゼーションのこれから-1 ～反グローバルズム等の動きと～  【第13回】グローバルゼーションのこれから-2 ～環境・気候変動・持続可能性（SDGs）の視点で～  【第14回】グローバルゼーションのこれから-3 ～日本はどうなるのか？～  【第15回】まとめ・総括</p> <p>※前記各回の内容は「予定内容」であり、トレンド、内容の濃淡などにより、内容の変更（順番の変更を含む）・調整（いわゆる「費やす時間の伸縮」などを含む）をすることがある。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーw i f iが整備されているので、履修登録者への経済的負担軽減、DXへの適応とペーパーレス、IoT環境の活用という観点から、紙による教科書等（書籍等）は使用しない。なお、「通商白書（主に2020年版以降）」を参照することが多い見込みなので、あらかじめダウンロードしておくことが望ましい。（インターネット上で無料閲覧・ダウンロードが可能）</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はあるながらもインターネット上にあふれている。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用すること。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して情報収集等、自主学修を行うことが望まれる。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応する。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心となる旨を理解願いたい。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）、または、学務部経由を希望する。</p>
留意事項	<p>世界情勢、社会情勢、政治経済情勢などの時事事象により、授業計画内容を変更する場合がある。また、履修登録者の各学部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合もある。</p>

科目コード	10130	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	国際経済と暮らし				
担当者	浅川 あや子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	グループディスカッション、小テストの回答、リアクションペーパーの執筆		
授業の概要					
本講義では複雑さを増す世界経済について、岩波新書『世界経済図説 第四版』を手掛かりとして、できるだけ分かりやすく解説します。冷戦終結後、急速に一体化する世界経済について、日本経済への影響も考慮しつつ学んで行きたいと思います。第14回には、授業に関連した映像資料を視聴した後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。					
キーワード					
国際貿易、国際金融、経済危機、バブル崩壊					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ内容について概ね80%理解し、解答することができる。				
評価方法	筆記試験、小テスト、リアクションペーパーの執筆	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業後、IC-UNIPAのクラスプロファイルの中の「テスト管理」にアップした小テストを受けること。また第14回では、DVD視聴後にリアクションペーパーを書いて提出してもらいます。 小テストは授業の復習となります。 リアクションペーパーを書くことで、映像資料への理解が深まります。 最後の授業でグループディスカッションを行い、学んだ知識を学生同士で確認します。				
評価方法	小テスト：約7回、リアクションペーパー：約2回	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験やリアクションペーパー等の記述に認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中等において著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 授業案内（授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法について説明する） 第2回 世界経済の輪郭 第3回 国際貿易 第4回 国際金融 第5回 多極化、地域統合と貿易摩擦 第6回 指令経済と途上国の市場経済化 第7回 人口・食料・エネルギー・資源 第8回 地球環境保全 第9回 経済危機 第10回 日本のバブル発生とその背景構造、バブル崩壊と長期不況 第11回 世界経済の構造変化 第12回 外国直接投資と企業のグローバル展開 第13回 「岐路に立つ日本の家電メーカー」（DVD視聴）映像資料を視聴後、リアクションペーパーを書いてもらいます。 第14回 まとめとディスカッション 第15回 授業内試験
使用テキスト	宮崎勇・田谷禎三『世界経済図説 第四版』岩波新書
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業の前に、『世界経済図説 第四版』の中の、授業の該当箇所を読んでおくこと。（30分） ・授業後、IC-UNIPAのクラスプロファイルの中の「テスト管理」にアップしてある「小テスト」を実施する（30分）。 配布資料に基づき、授業の復習をする（30分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mailアドレスをお願いします。 「asakawa_ayako@icc.ac.jp」
留意事項	小テストについては、次の授業で簡単な講評を行います。

科目コード	10131	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	教育と人権				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>人権とは各人の自由の保障を通じて個人の人格を伸張することに本質があります。そこでは、人間相互の平等が前提とされていますが、現実には経済的・社会的な格差が存在しています。性別や国籍、障害の有無などによる区別が典型といえるでしょう。そのため、すべての人が等しく教育と労働の機会が保障されるように、さまざまな法律や命令などが整備されています。この授業では、これらの法律や命令などを憲法の人権の観点から考察することを通じて、教育と労働をめぐる生じている現代的な課題について考察することを目的としています。</p>					
キーワード					
人権、自由権、社会権、教育の機会均等、勤労の権利・義務、労働基本権					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	人権尊重の本質に関する理解に基づいて、自由権と社会権の相互関係を説明することができる。日本国憲法の教育権や労働基本権が、法律によりどのように保障されているかを具体的な事例と関連づけて考察することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	教育および労働の機会均等を憲法の平等主義の観点から考察でき、これらをめぐる現代的課題を教育や労働をめぐる法制度を通じて検討することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
教育や労働をめぐる社会で生じるさまざまな問題に関心を持ち、その原因を法的に分析し、解決策を自ら検討しようとする態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
教育をめぐる子どもや親の自由と国家的な一定水準の確保、契約締結をめぐる労働者の保護と企業による営業の自由を対立関係として捉えることができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス-授業説明と法の学び方-</li> <li>2 法とは何か-法と権利の相互関係-</li> <li>3 人権の誕生とその類型-自由権と社会権-</li> <li>4 人権と国際的保障-個人主義と普遍性-</li> <li>5 明治憲法における教育と労働</li> <li>6 日本国憲法による教育と労働</li> <li>7 教育の機会均等(第26条第1項)</li> <li>8 教育をめぐる法制度</li> <li>9 教育権をめぐる親(教師)と国家</li> <li>10 教育をめぐる自治と行政</li> <li>11 勤労の権利および義務(第27条)</li> <li>12 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その1-</li> <li>13 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その2-</li> <li>14 労働基本権の保障(第28条)-労働組合法・労働関係調整法-</li> <li>15 労働をめぐるさまざまな問題</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	必要に応じて参考資料を印刷して配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。後学期開講の「人権と教育」とは異なりますのでご注意ください。

科目コード	10133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	共に生きる				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	08:協同学修 11:討論 17:発問と回答		
授業の概要					
<p>「共に生きる」という社会の実現が叫ばれて久しい。身近な地域社会における生活課題から人類の生存に関わる地球的規模の課題に至るまで「共に生きる社会」を阻む課題は多岐にわたる。この講座では、現代社会における多様な社会課題を取上げ、未来を生きるわたしたち自身が創る社会のための参加と協働の意義と方法を考察する。</p> <p>また、講義を通して各自が関心を寄せるテーマを見出し、その課題へのアクションを誘うことをめざす。このために必要な情報提供は毎時間行う。</p>					
キーワード					
現代社会 ボランティア コミュニティ 福祉 教育 国際 差別 偏見 格差 平和 環境 文化 NPO NGO 参加 協働 市民社会					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	講義で取り上げたテーマについての知識の獲得と理解の深化と、共に生きる社会をめざす市民の役割と意義を説明できる。		
評価方法	試験	評価割合	80%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	講義で取り上げたテーマを基礎に、現代社会における地球規模から地域社会における課題の改善に取り組む方法、組織のマネジメント、参加と協働の実践に向けた思考力を身に付ける。		
評価方法	毎時間のリアクションシートと試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、各回の講義のテーマへの関心・意欲・態度をふりかえりシートの記述などから把握する。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義で取り上げたテーマへの関心を寄せる活動を見出した場合は、実践的な取り組みに挑むことを推奨する。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価の対象とはしない。講義の根底を貫く人類にとっての価値である人権の理解を前提に各テーマの学修を深める。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	<p>【第01回】 人類と現代社会の課題</p> <p>【第02回】 近代社会の誕生とボランティア</p> <p>【第03回】 ボランティアと人権</p> <p>【第04回】 アメリカの人種問題と公民権運動</p> <p>【第05回】 家族とボランティア活動</p> <p>【第06回】 障がい者とボランティア活動</p> <p>【第07回】 障がい者観を問うボランティア活動</p> <p>【第08回】 ホームレスの自立支援とボランティア活動</p> <p>【第09回】 途上国支援とボランティア活動</p> <p>【第10回】 人権擁護とボランティア活動</p> <p>【第11回】好きなことを生かすボランティア活動</p> <p>【第12回】 多文化共生とボランティア活動</p> <p>【第13回】 福祉・医療施設とボランティア活動</p> <p>【第14回】 学校・社会教育施設とボランティア活動</p> <p>【第15回】 まちづくりとボランティア活動  まとめ</p> <p>試験</p>
使用テキスト	池田幸也『ボランティア論』 『市民社会の創造』 発行：大学図書出版 2022年 第2版 ISBN978-4-907166-81-6
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	教科書をベースに毎回の講義テーマについて取上げるので、講義の前には教科書の該当箇所を熟読して予習する。講義の後には、疑問や課題を整理し、調べ学習を通して復習に努める。参考文献や資料は毎回の講義で必要に応じて提示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、あらかじめ学務課等にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	初回の講義でお知らせします。
留意事項	*教科書は授業と試験で使用するので、必ず購入して毎時間持参すること。

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 a				
担当者	中島 美那子、石塚 美也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
社会・文化的な性のありようをジェンダーといいます。本授業では、ジェンダーに関する基礎知識を学びます。ジェンダーの概念を客観的に捉えつつ、受講者が自らの見方・考え方を確立していくことができるように、できるだけ身近な事象を取り上げます。本授業は、地域の心理臨床の実務経験を持つ者と地方行政での職務経験をもつ者の2名で担当することから、現場から得た学びも共有したいと思います。					
キーワード					
ジェンダー、LGBTQ+、男らしさ・女らしさ、DV					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	ジェンダー、LGBTQ+、DV等に関するさまざまな理論や現在の動向について知見を深め、概ね80%の内容を解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	日頃、自明のこととして捉えてきたことが、いかにジェンダーの影響を受けているかについて考えを深め、これらのことを自らの今後の課題としてとらえ、その解決策を示すことができる。				
評価方法	リアクションペーパーおよび学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業終了時に取り組む「振り返りシート」において、明確な主体的学修や気づきの記述がある。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。しかし、振り返りシートや学期末筆記試験での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。本授業では性的少数者や男女の公平性について論じることが多くあるため、注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】 sex, gender, sexuality 一性は女と男の2つかー (中島美那子)</p> <p>【第2回】 「女らしさ」「男らしさ」の発達を考える (中島美那子)</p> <p>【第3回】 教育とジェンダー (中島美那子)</p> <p>【第4回】 ジェンダーバイアス (石塚美也)</p> <p>【第5回】 ダイバーシティとジェンダーのこれから (石塚美也)</p> <p>【第6回】 恋愛とジェンダー (中島美那子)</p> <p>【第7回】 LGBTQについて一性同一性障害・トランスジェンダーを中心にー (石塚美也)</p> <p>【第8回】 昭和時代とジェンダー (1) 戦前、戦中そして戦後 (中島美那子)</p> <p>【第9回】 昭和時代とジェンダー (2) 女性の置かれた立場 (中島美那子)</p> <p>【第10回】 結婚・仕事・WLB (石塚美也)</p> <p>【第11回】 ジェンダーと政治 (石塚美也)</p> <p>【第12回】 男性学入門 (中島美那子)</p> <p>【第13回】 DV・デートDVの現状と課題 (中島美那子)</p> <p>【第14回】 子育てとジェンダー (中島美那子)</p> <p>【第15回】 介護とジェンダー、シニア期のジェンダー (中島美那子)</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	中島美那子・塩原慶子『地域に生きる女たち』(溪水社, 2022年)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前学修として、自分の生活の中にあるジェンダーについて意識してみることをお勧めします。事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します(中島のみ)。石塚先生と連絡が取りたい時は、学務部に相談してください。
留意事項	特になし。

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 b				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	ほぼ毎回グループワーク（話し合い）と発表を行います。ともに学び考え合うことによる協働学習を目指します。		
授業の概要					
みなさんはこれまでの生活の中で「女／男だから～しなさい／してはいけません」ということを言われたことはないでしょうか。あるいは一般論として「女／男は～である（べき）」という言葉を読んだり聞いたりしたことはないでしょうか。そしてその時どう感じたでしょうか。また社会的に見ると、ジェンダーによる差別や格差が見られます。人は何らかの性のあり方を持っていますが、そのあり方は生まれつきの要素と同時に、社会的・文化的要素によっても影響を受けます。ジェンダーは、性のあり方を社会的・文化的側面から考える視点です。この授業では、家族・学校・地域・社会などの場面で、ジェンダーがどのように意識され機能するかについて、みなさんの体験を踏まえて共に考えていきます。					
キーワード					
sex/gender/sexuality、性別役割分業、equality/equity、性的多様性					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業の内容を踏まえて、ジェンダーをめぐる諸課題について理解し、説明することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	ジェンダーの視点を踏まえて、現在の生活と将来の生き方について、自分なりに考え選択していこうとする姿勢を持つ。またジェンダーの視点から、社会問題を捉え、自分の意見を持てるようにする。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ジェンダーの問題は、社会的問題であると同時に個人的問題でもあるため、相互の存在を認め合い、人権を尊重する姿勢を大切にすることを求めたい。そして自分とは異なる意見に耳を傾けるようにお願いしたい。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション 授業のねらいと概要</p> <p>【第2回】 ジェンダーとは ジェンダーに関わる経験の振り返り・共有</p> <p>【第3回】 性の多面性・多様性</p> <p>【第4回】 ジェンダーに関わる法制度（男女共同参画社会基本法・雇用機会均等法）</p> <p>【第5回】 家族とジェンダー（1） 性別役割分業</p> <p>【第6回】 家族とジェンダー（2） 三歳児神話と子育て</p> <p>【第7回】 家族とジェンダー（3） 選択的夫婦別姓</p> <p>【第8回】 家族とジェンダー（4） 同性婚</p> <p>【第9回】 学校とジェンダー（1） 隠れたカリキュラム</p> <p>【第10回】 学校とジェンダー（2） 男女共学と別学</p> <p>【第11回】 歴史の中のジェンダー（1） 近代社会とジェンダー</p> <p>【第12回】 歴史の中のジェンダー（2） フェミニズム運動</p> <p>【第13回】 これからの課題（1） 男性のあり方</p> <p>【第14回】 これからの課題（2） 性の多様性とジェンダー平等</p> <p>【第15回】 まとめ</p> <p>期末レポート</p>
使用テキスト	指定しません。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前には、その回のテーマに関わるテーマについて調べる。ネット検索だけでなく、可能な限り文献にあたる。（60分）</li> <li>・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分）</li> </ul>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	質問などがあれば、授業の前後やメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員を越えた場合は、抽選となります。</li> <li>・多人数の授業になることが予想されますが、ほぼ毎回グループワークを行います。単に「話を聴く」授業ではありません。</li> <li>・能動的・積極的に参加したい人の履修を期待します。</li> <li>・グループは毎回変えて、できるだけ多くの人と話し合えるようにします。必ず指定されたグループの座席に座ってください（指定された場所に座っていない場合欠席とします）。</li> </ul>

科目コード	10135	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	家族を考える				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	ほぼ毎回グループワーク（話し合い）と発表を行います。ともに学び考え合うことによる協働学習を目指します。		
授業の概要					
みなさんにとって「家族」とは何でしょうか。経験の中で家族のイメージはあるにしても、「家族とは何か」について説明することは難しいかもしれません。「家族の役割・機能」についても同様でしょう。家族の姿は時代や社会によって大きく異なっており、これからも変わっていきます。例えば、子育ては現在では家族の中心的機能（役割）とされていますが、これは近代社会になってから強調されたことでした。この授業では家族の歴史を振り返りながら、現在と将来の家族のあり方を一緒に考えていきます。					
キーワード					
家族 歴史 多様性 家庭教育					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業の内容を踏まえて、家族の歴史と現状、家族をめぐるとる諸課題について理解し、説明することができる。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	家族の問題に関心を持ち、これからの家族のあり方について自分なりに考えていこうとする姿勢を持つ。また将来自分自身が家族を築く選択をした場合、どのような家族にしたいのかを思い描けるようにする。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。家族のあり方は多様であり、「正しい家族」は存在しないことから、個人のプライバシーに配慮し、互いの存在と人権を尊重しながら、自由な意見交換をしよう願いたい。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 インTRODクシヨN 授業のねらいと概要 第2回 家族とは何か 第3回 家族の歴史（1）：「家父長制」 第4回 家族の歴史（2）：「近代家族」の成立 第5回 家族の歴史（3）：現代社会の家族 第6回 子どもと家族（1）：育児のあり方 第7回 子どもと家族（2）：家庭教育 第8回 子どもと家族（3）：学校教育と家族 第9回 結婚と家族（1）：晩婚化・非婚化 第10回 結婚と家族（2）：選択的夫婦別姓・同性婚・事実婚 第11回 家族をめぐるとる課題（1）：DV（ドメスティック・バイオレンス） 第12回 家族をめぐるとる課題（2）：児童虐待 第13回 家族をめぐるとる課題（3）：離婚と親権 第14回 家族のこれから（1）：多様化 第15回 家族のこれから（2）：個人・家族・社会 学期末レポート
使用テキスト	指定しません。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前には、その回のテーマに関わるとるテーマについて調べる。ネット検索だけでなく、可能な限り文献にあたる。（60分） ・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分） ・参考文献等は授業内で適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	質問などがあれば、授業の前後やメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）
留意事項	・定員を越えた場合は初回の授業で抽選を行います。履修を希望する場合は、必ず初回授業に出席してください。 ・多人数の授業になることが予想されますが、ほぼ毎回グループワークを行います。単に「話を聴く」授業ではありません。 ・能動的・積極的に参加したい人の履修を期待します。 ・グループは毎回変えて、できるだけ多くの人と話し合えるようにします。必ず指定されたグループの座席に座ってください（指定された場所に座っていない場合欠席とします）。

科目コード	10137	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスI 。				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10 資料調査課題		
授業の概要					
<p>私たちの日常や社会活動は情報技術や通信網の利用が不可欠となっています。本講義では現代の大学生が知っておくべき情報通信技術の教養とそれらの社会的背景および将来展望について講義をします。</p> <p>社会の発展の過程の歴史とこれからの展望について学習します。（社会におけるデータAIの活用）  データとは何かを学び、特に数値データを取り扱うための統計学など初等的な数学をExcelを用いて実習します。（データリテラシー）  データ主導なAIモデル（深層学習など）の基礎を学習し、その活用法も学びます。（データ・AI活用における留意事項）</p> <p>※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルを体系的に扱い学ぶ入門的な講義と実習を行います。</p> <p>高等学校 情報科  授業資料  生徒向け  情報I  情報II</p>					
キーワード					
情報リテラシー、情報リスク、情報技術（IT）、情報通信技術（ICT）、データサイエンス、人工知能（AI）、テキストマイニング、ダッシュボード					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	社会における情報技術や進歩、そのリスクやそのセキュリティについて理解する。 また、大規模データの活用や人工知能についても理解する。		
評価方法	小テストおよび課題提出	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容を理解することにより、ICTおよびAIに関する問題を考察し、論理的に表現することができる。		
評価方法	学期末試験	評価割合	60%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼その他			
特に無し			
評価割合	0%		

授業計画	第01回：講義のガイダンス データサイエンスとは？ 第02回：データサイエンスの応用事例 第03回：機械学習の基本とその精度評価 第04回：データの可視化 第05回：テキストマイニング 第06回：ディープラーニング 第07回：オープンデータとは 第08回：オープンデータの成り立ち 第09回：データと倫理 第10回：データサイエンスによるSDGs課題解決への取り組み 第11回：データ収集の基礎 第12回：データ収集演習 第13回：分類と回帰 第14回：ダッシュボードの作成 第15回：AIサービス Microsoft365Copilot など 期末試験
使用テキスト	『データサイエンスリテラシー』（実教出版）9784407352573
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本的に、上記のテキストを元に講義を行います。テキストを予習復習に用いてもらいます。
障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段	Teams掲示板を用いて連絡を受け付けます
留意事項	googleアカウント および Bingアカウント（無料で個人で作成できるもの）を持っていると、理解が深まります。

科目コード	10137	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスI d				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10 資料調査課題		

#### 授業の概要

私たちの日常や社会活動は情報技術や通信網の利用が不可欠となっています。本講義では現代の大学生が知っておくべき情報通信技術の教養とそれらの社会的背景および将来展望について講義をします。

社会の発展の過程の歴史とこれからの展望について学習します。（社会におけるデータAIの活用）  
 データとは何かを学び、特に数値データを取り扱うための統計学など初等的な数学をExcelを用いて実習します。（データリテラシー）  
 データ主導なAIモデル（深層学習など）の基礎を学習し、その活用法も学びます。（データ・AI活用における留意事項）

※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルを体系的に扱い学ぶ入門的な講義と実習を行います。

高等学校 情報科  
 授業資料  
 生徒向け  
 情報I  
 情報II

#### キーワード

情報リテラシー、情報リスク、情報技術（IT）、情報通信技術（ICT）、データサイエンス、人工知能（AI）、テキストマイニング、ダッシュボード

#### 学位授与方針との関係

▼知識・技能			
到達目標	社会における情報技術や進歩、そのリスクやそのセキュリティについて理解する。 また、大規模データの活用や人工知能についても理解する。		
評価方法	小テストおよび課題提出	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容を理解することにより、ICTおよびAIに関する問題を考察し、論理的に表現することができる。		
評価方法	学期末試験	評価割合	60%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼その他			
特に無し			
評価割合	0%		

授業計画	第01回：講義のガイダンス データサイエンスとは？ 第02回：データサイエンスの応用事例 第03回：機械学習の基本とその精度評価 第04回：データの可視化 第05回：テキストマイニング 第06回：ディープラーニング 第07回：オープンデータとは 第08回：オープンデータの成り立ち 第09回：データと倫理 第10回：データサイエンスによるSDGs課題解決への取り組み 第11回：データ収集の基礎 第12回：データ収集演習 第13回：分類と回帰 第14回：ダッシュボードの作成 第15回：AIサービス Microsoft365Copilot など 期末試験
使用テキスト	『データサイエンスリテラシー』（実教出版）9784407352573
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本的に、上記のテキストを元に講義を行います。テキストを予習復習に用いてもらいます。
障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段	Teams掲示板を用いて連絡を受け付けます
留意事項	googleアカウント および Bingアカウント（無料で個人で作成できるもの）を持っていると、理解が深まります。

科目コード	10140	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地域を学ぶ a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		

授業の概要					
<p>当地域・茨城県について、一般論だけでなく実例を通じた様々な視点から多角的に学修します。          なお、講師は隣県・福島県の出身ですが、自ら経営している会社の営業活動、報道記者・ラジオパーソナリティー（元・L u c k y F M茨城放送、現・C R T 栃木放送）等の放送実務、東日本大震災復興関連事業〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕などを通して、県内44市町村全てに出向いた経験を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 茨城県の姿を俯瞰し、おおまかに地域の現状を把握する。</li> <li>2. 特徴的なテーマを通して、地域の姿を考察する。</li> <li>3. 現状や課題を把握することで他地域との比較も可能になり、自らの地域について未来志向の目線を持てるようになる。</li> </ol>					
キーワード					
地域、茨城県、県央、県北、鹿行、県南、県西、都心100キロ圏、北関東、都道府県魅力度ランキング、南北問題、南北格差、原発、臨海工業開発、臨海工業地帯、水戸、交通、鉄道、農林水産、農業、水産、海面、内水面、市街地、空洞化、つくば、企業					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	地域についての基本的な知識や考え方について、実例を含め多角的な視点を通して学び、未来志向の目線で、地域課題の解決などを主体的に考えることができる。				
評価方法	学期末課題	評価割合	100%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。				
評価方法	学期末課題	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>直接的な評価対象とはしません。          ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
<p>直接的な評価対象とはしません。          ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼公正性					
<p>直接的な評価対象とはしません。          ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。          また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。なお、AIの利用について否定しませんが、一見体裁の良い文章等を生成できる反面、利用する側（執筆者本人）の資質が問われることとなるので、十分留意願います。（いわゆる「執筆者本人の知識や理解のレベルを超える内容、AI利用がバレバレ状態」と思料される場合は減点対象となる。）</p>					
評価割合	0%				
▼その他					
<p>授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。          主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。</p> <p>※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。</p>					
評価割合	0%				

★地域についての総論★					
【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・「地域」の見方・読み方					
【第2回】茨城県の「姿」「立ち位置」「地域別考察」					
※茨城県について俯瞰し考察します。また、これまで直面してきた災害についても論じます。					
※県内5地域（県央、県北、鹿行、県南、県西）ごとにその姿について考察します。					
【第3回】茨城県にとっての「グローバル化」を考察					
※外国人と本県の関わりについて様々な側面より考察します。					
※いわゆる「インバウンド」の影響（光と影）について考察します。					
★テーマ別（特徴〔特長〕や課題別）による茨城県の考察★					
【第4回】都心100キロ圏（県都ベース）という宿命					
※他の北関東2県（栃木・群馬）同様、首都・東京から決して遠くない立地にあることのメリット・デメリットについて考察します（比較を含む）。					
【第5回】都道府県魅力度ランキングにおける「低評価」と「本県の発信力」					
※類似評価を受けている他県との比較などを含め、現状と理由などについて考察します。					
※「本県の発信力」について様々な側面より考察します。					
【第6回】いわゆる「南北問題」「県都スルー型問題」					
※おおむね国道125号を境にそれぞれ南北でみられる格差や、特に交通網において、各地域が独立して東京との拠点が存在していることについて考察します。					
【第7回】地場産業の栄枯盛衰と経産省所管分野による地域形成					

授業計画	<p>※社会経済環境の変化による地場産業や地域の栄枯盛衰と、原発・臨海工業開発など、主に経産省の所管分野による地域形成などについて考察します。</p> <p>【第8回】県都・水戸市の変遷にみる「社会構造の変化」  ※かつては、旧国鉄による鉄道の要衝として栄えたが、近年、中心市街地の空洞化など都市の衰退に直面する同市は考察します。</p> <p>【第9回】隣県と結びつきが強い地域・市町の存在  ※県央以外の4地域全てでその傾向が見られる現状と課題について考察します。</p> <p>【第10回】つくば開発  ※つくば地域（その周辺圏を含む）について、国内稀に見るケースとなった地域開発、そして現状や影響などについて考察します。</p> <p>【第11回】決して脆弱ではない「交通インフラ」  ※高速道路4路線、全国2位の道路総延長距離、鉄道15路線（停車駅は無いが県内を通過している東北新幹線を含む。）、空港、港湾（国際・重要港湾）など交通インフラは脆弱とはいえないが、「便利なゆえの」影響などについて考察します。</p> <p>※交通インフラの整備が地域開発に影響していることについて考察します。</p> <p>【第12回】全国第3位の農業県（産出額ベース）・全国上位の水産業（海面・内水面とも、生産量ベース。）  ※恵まれた環境と大市场・東京に近い立地を生かして農業水産業は地場産業の一角を占めているが、その現状や課題について考察します。</p> <p>【第13回】企業活動を通して見る「茨城の姿」  ※特徴的な企業行動・活動の実例を通して考察します。</p> <p>【第14回】「茨城の可能性」  ※既存の環境や地域資源の利活用という視点で考察します。</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーwifiが整備されていますので、DXへの適応とペーパーレス、IoT環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して、地域についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
留意事項	<p>前記授業内容にも記しましたが、時事事象（災害等も含む）により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各学部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10144	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	生命科学 a				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	17. 発問と応答		
授業の概要					
<p>更科功「美しい生物学講義」をテキストに用いて、最新の生物学について読み解いていきます。これにより、生物学を面白いと感じられる講義を行ないたいと考えています。読み解く順序は、順序は全体の構成上変更することがあります。輪読形式として、受講者をグループに分け、担当する章を事前に予習し、スライドを作り発表してもらいます。テキストの内容に加え、関連する内容を深掘をしてください。</p>					
キーワード					
生物学					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「美しい生物学講義」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第一章  第2回 第二章、第三章  第3回 第四章  第4回 第五章、第六章  第5回 第七章  第6回 第八章、第九章  第7回 第十章  第8回 第十一章、第十二章  第9回 第十三章  第10回 第十四章、  第11回 第十五章  第12回 第十六章  第13回 第十七章  第14回 第十八章、第十九章  第15回 最終回  (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)</p>
使用テキスト	更科功「美しい生物学講義」ダイヤモンド社 ISBN 978-4-478-10830-7
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などもお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員とします。

科目コード	10144	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	生命科学 b				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	17. 発問と応答		
授業の概要					
<p>更科功「美しい生物学講義」をテキストに用いて、最新の生物学について読み解いていきます。これにより、生物学を面白いと感じられる講義を行ないたいと考えています。読み解く順序は、順序は全体の構成上変更することがあります。輪読形式として、受講者をグループに分け、担当する章を事前に予習し、スライドを作り発表してもらいます。テキストの内容に加え、関連する内容を深掘をしてください。</p>					
キーワード					
生物学					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「美しい生物学講義」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス、第一章 第2回 第二章、第三章 第3回 第四章 第4回 第五章、第六章 第5回 第七章 第6回 第八章、第九章 第7回 第十章 第8回 第十一章、第十二章 第9回 第十三章 第10回 第十四章、 第11回 第十五章 第12回 第十六章 第13回 第十七章 第14回 第十八章、第十九章 第15回 最終回 (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)
使用テキスト	更科功「美しい生物学講義」ダイヤモンド社 ISBN 978-4-478-10830-7
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などもお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員とします。

科目コード	10147	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	食といのち				
担当者	助川 宏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜5限	履修可能学科等		E Pe Pc C W F N M L	
関連資格		AL要素	07. 発表 10. 資料調査課題 15. レポート指導 17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>生物は外界から物質やエネルギーを摂り入れ生命活動を営んでいます。人間の生命と健康の源も適切な食物摂取と規則正しい食生活にあります。我々が日常口にしている500種類にのぼる食品は、「栄養」（1次機能）、「嗜好」（2次機能）、「生体調節」（3次機能）の3つの役割を持っています。個々の食品の持つこれらの特徴を知り、健康な体と心を維持するための食生活習慣を身につける自分に合った方法を授業を通して見つけていきます。また本講義の中で提供する情報から食品群ごとの生産量や消費量などの現状を把握し、食に関する現状の問題点やサステナブルな社会を実現するための食の在り方について一緒に考えてみましょう。本授業の最後には、楽しみながら食への理解を深めるため、各自興味のある食品を一つ取り上げ、科学的視点から調査・発表を行います</p>					
キーワード					
食品、栄養、美味しさ、食品の機能性、食生活、健康、いのち					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	食品の栄養素や機能性成分についての知識を習得するとともに正しい食生活習慣を身につけるために授業中に示されるポイントとなるキーワードをもれなく書き取ること、また授業内のポイントを理解し、授業で取り上げられた知識を習得することを目指す。				
評価方法	毎回の授業レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	現在の自分の食習慣の問題点について考察し、改善するための食習慣を考えることができる。また、食品に含まれる栄養素や機能性をテーマとして、科学的な視点から調査を行い、調査からわかったことについてレポートにまとめ、パワーポイントを用いて発表する。				
評価方法	レポート 2回 発表 1回（1人5分程度）	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、出席状況が悪い場合レポートが未提出となるため評価が下がること、また、授業レポートの記入状況により評価が下がるので注意すること。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為が見られた場合には、厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言、態度、提出課題および発表において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：授業概要、食生活の現状チェック、自分が考える健康的な食生活とは</p> <p>第2回：食品の栄養（1次機能）、嗜好（2次機能）、機能性（3次機能）と食品の種類と分類</p> <p>第3回：第一の栄養 ～水分について～</p> <p>第4回：第二の栄養 ～ミネラルについて～</p> <p>第5回：第三の栄養 ～ビタミンについて～</p> <p>第6回：第三の栄養 ～炭水化物について～</p> <p>第7回：第四の栄養 ～タンパク質について～</p> <p>第8回：第五の栄養 ～脂質について～</p> <p>第1回目レポート提出「食生活の問題点と改善方法について」 A4（3600文字）、3枚程度</p> <p>第9回：食品の相互作用 ～味・栄養～</p> <p>第10回：食品の安全性 ～遺伝子組み換え、農薬・食品添加物について～</p> <p>第2回目レポート提出「食品がもつ栄養素や機能性について」 A4（3600文字）、3枚程度</p> <p>第11回：現代の食物や食生活の問題点をまとめ解決策を探る ～提出されたレポートから～</p> <p>第12回：発表およびディスカッション</p> <p>第13回：発表およびディスカッション</p> <p>第14回：発表およびディスカッション</p> <p>第15回：発表およびディスカッションおよびまとめ</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は、授業時UNIPAに掲示

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習必要なし。 授業後、掲示資料について復習するとともに資料にはない関連事項に関して、主体的に取り組み知見を深めることが望ましい。</p> <p>1. 栄養素の基本データ（公的な成分値）数値を引用する際のゴールドスタンダードです。 食品成分データベース（文部科学省） 特徴：「日本食品標準成分表」の最新版を検索できる公式サイト。 活用法：レポートで「100gあたりのタンパク質量」や「ビタミン含有量」などの具体的な数値を根拠として示す際に必須です。 日本人の食事摂取基準（厚生労働省） 特徴：各栄養素を「どれくらい摂るべきか」の基準。 活用法：授業でターゲット（高齢者や妊婦など）に合わせた栄養指導案や、不足・過剰摂取のリスクを議論する際の根拠になります。</p> <p>2. 機能性・安全性に関する科学的情報特定の成分（ポリフェノール、カテキン、乳酸菌など）の効果を調べるのに最適です。 「健康食品」の安全性・有効性情報（国立健康・栄養研究所 / HFNet） 特徴：素材ごとに「ヒトでの有効性」が科学的論文に基づいてレベル分けされています。 活用法：「〇〇にはダイエット効果がある」といった情報の信憑性を確認するのに最も適したサイトです。 機能性表示食品の届出情報検索（消費者庁） 特徴：メーカーが提出した科学的根拠（SR：システムレビュー）を閲覧できます。 活用法：実際の市販品がどのような研究論文を根拠に「機能」を謳っているのかを分析するレポートに役立ちます。</p> <p>3. 農作物・成分の専門データベースより詳細な化学成分や農学的な知見を得たい場合。 農作物の機能性成分・評価情報データベース（農研機構） 特徴：野菜や果物、茶などの成分値や、その測定法・機能性研究のデータが豊富です。 活用法：食品科学の実験レポートや、特定の食材に特化した研究の背景資料に。</p> <p>4. 学術論文・二次資料の検索深い考察や最新の研究動向を引用する場合。 CiNii Research / J-STAGE 特徴：国内の学会誌や紀要に掲載された日本語の論文を検索・閲覧できます。活用法：「先行研究ではどのように言われているか」を記述する際に使用します。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>まずはUNIPAにてご連絡ください。</p>
<p>留意事項</p>	<p>特になし。</p>

科目コード	10148	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地球環境と人間 a				
担当者	大塚 雅哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
地球温暖化にともなう気候変動など、人間活動が地球環境に与える影響が顕著になっている。我々を取り巻く生態系にも影響が及んできており、多様な生命を育む豊かな地球環境を維持し、限界を超えた急激な変化を回避することが喫緊の課題である。地球環境に関する最近のデータや世の中の動きから現在の置かれている状況と課題を認識するとともに、かけがえのない地球環境を守っていくにはどうすれば良いか、これから求められる人間行動について考えていきます。特に、二酸化炭素の主要な排出源であるエネルギーの問題や、地球環境に与える影響の大きい都市化や食の問題についても取り上げ、人間活動を含めたトータルな地球環境システムとしての在り方を検討していきます。エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
地球環境システム、生態系、人間活動、気候変動、プラネタリバウンダリ、エネルギー、都市、食、行動変容					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	地球環境と人間に関する歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	地球環境の維持に向けてこれからの人間はどうあるべきか、個人として今後の地球環境問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業への出席状況、提出物の内容をもとに評価する。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
特に評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	<p>第1回： 導入（地球環境、現代的課題）</p> <p>第2回： 地球の歴史（誕生から豊かな環境の形成へ）</p> <p>第3回： 人類発展の歴史（発展と影、公害から地球環境汚染へ、人新世）</p> <p>第4回： 生態系と物質循環（生物多様性、水、大気、炭素、窒素、リン）</p> <p>第5回： 気候変動（地球環境システム、人的影響）</p> <p>第6回： 地球環境を維持するために（プラネタリーバウンダリ、SDGs）</p> <p>第7回： 火の利用（熱利用技術、火力発電、環境負荷）</p> <p>第8回： 原子力の利用（発電のしくみ、安全、放射線、核燃料サイクル、放射性廃棄物）</p> <p>第9回： 再生可能エネルギー・水素の利用（風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題）</p> <p>第10回： トータルエネルギーシステム（電力システムの安定制御、全体最適化）</p> <p>第11回： 都市と環境（都市化、スマートシティ、リサイクル、国内外の取り組み）</p> <p>第12回： 食、土地、水（食料生産と地球環境、土地・水の利用）</p> <p>第13回： 地球環境と社会科学（政治、経済、社会）</p> <p>第14回： グローバルな動向（地球環境問題への対応、IPCC/IPBES）</p> <p>第15回： 日本のこれから（環境基本計画、エネルギー基本計画、求められる人間行動） （多少の変更あり）</p>
使用テキスト	授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オーウェン・ガフニー/ヨハン・ロックストローム著：地球の限界、河出書房新社（2022年）</li> <li>2. 環境省：環境基本計画、Web入手可</li> <li>3. 資源エネルギー庁：エネルギー基本計画、Web入手可</li> <li>4. IEA：World Energy Outlook、Web入手可（毎年10月頃最新刊発行）</li> </ol> <p>【予習・復習について】</p> <p>予習：その回のテーマに関連する資料を探して目を通し、興味を持った点や疑問点などを整理してから授業に臨むと良い。（90分）</p> <p>復習：講義後に良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深め、その内容を最終レポートに向けてまとめておく。（90分）</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	IC-MAILを用いて連絡ください。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者数の上限は各クラス約70名（先着順）とする。履修登録期間中でも上限に達した場合には、その時点で履修登録を停止する。できるだけ多く受講できるよう、後日辞退することのないように良く内容を検討して履修登録すること。</li> <li>・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクタ投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくとい良いでしょう。</li> </ul>

科目コード	10148	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地球環境と人間 b				
担当者	大塚 雅哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
地球温暖化にともなう気候変動など、人間活動が地球環境に与える影響が顕著になっている。我々を取り巻く生態系にも影響が及んできており、多様な生命を育む豊かな地球環境を維持し、限界を超えた急激な変化を回避することが喫緊の課題である。地球環境に関する最近のデータや世の中の動きから現在の置かれている状況と課題を認識するとともに、かけがえのない地球環境を守っていくにはどうすれば良いか、これから求められる人間行動について考えていきます。特に、二酸化炭素の主要な排出源であるエネルギーの問題や、地球環境に与える影響の大きい都市化や食の問題についても取り上げ、人間活動を含めたトータルな地球環境システムとしての在り方を検討していきます。エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
地球環境システム、生態系、人間活動、気候変動、プラネタリバウンダリ、エネルギー、都市、食、行動変容					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	地球環境と人間に関する歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。				
評価方法	レポート提出	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	地球環境の維持に向けてこれからの人間はどうあるべきか、個人として今後の地球環境問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。				
評価方法	レポート提出	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への出席状況、提出物の内容をもとに評価する。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
特に評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回： 導入（地球環境、現代的課題）</p> <p>第2回： 地球の歴史（誕生から豊かな環境の形成へ）</p> <p>第3回： 人類発展の歴史（発展と影、公害から地球環境汚染へ、人新世）</p> <p>第4回： 生態系と物質循環（生物多様性、水、大気、炭素、窒素、リン）</p> <p>第5回： 気候変動（地球環境システム、人的影響）</p> <p>第6回： 地球環境を維持するために（プラネタリーバウンダリ、SDGs）</p> <p>第7回： 火の利用（熱利用技術、火力発電、環境負荷）</p> <p>第8回： 原子力の利用（発電のしくみ、安全、放射線、核燃料サイクル、放射性廃棄物）</p> <p>第9回： 再生可能エネルギー・水素の利用（風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題）</p> <p>第10回： トータルエネルギーシステム（電力システムの安定制御、全体最適化）</p> <p>第11回： 都市と環境（都市化、スマートシティ、リサイクル、国内外の取り組み）</p> <p>第12回： 食、土地、水（食料生産と地球環境、土地・水の利用）</p> <p>第13回： 地球環境と社会科学（政治、経済、社会）</p> <p>第14回： グローバルな動向（地球環境問題への対応、IPCC/IPBES）</p> <p>第15回： 日本のこれから（環境基本計画、エネルギー基本計画、求められる人間行動） （多少の変更あり）</p>
使用テキスト	授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オーウェン・ガフニー/ヨハン・ロックストローム著：地球の限界、河出書房新社（2022年）</li> <li>2. 環境省：環境基本計画、Web入手可</li> <li>3. 資源エネルギー庁：エネルギー基本計画、Web入手可</li> <li>4. IEA：World Energy Outlook、Web入手可（毎年10月頃最新刊発行）</li> </ol> <p>【予習・復習について】</p> <p>予習：その回のテーマに関連する資料を探して目を通し、興味を持った点や疑問点などを整理してから授業に臨むと良い。（90分）</p> <p>復習：講義後に良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深め、その内容を最終レポートに向けてまとめておく。（90分）</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	IC-MAILを用いて連絡ください。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者数の上限は各クラス約70名（先着順）とする。履修登録期間中でも上限に達した場合には、その時点で履修登録を停止する。できるだけ多く受講できるよう、後日辞退することのないように良く内容を検討して履修登録すること。</li> <li>・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクタ投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくとい良いでしょう。</li> </ul>

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
<p>災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方を以て学修します。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <p>1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。</p> <p>2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。</p> <p>3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。</p> <p>4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積</p>					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。なお、AIの利用について否定しませんが、一見体裁の良い文章等を生成できる反面、利用する側（執筆者本人）の資質が問われることとなるので、十分留意してください。（いわゆる「執筆者本人の知識や理解のレベルを超える内容、AI利用がバレバレ状態」と思料される場合は減点対象となる。）			
評価割合	0%		
▼その他			
<p>授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。</p> <p>主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。</p> <p>※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。</p>			
評価割合	0%		

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」）</p> <p>【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など）</p> <p>【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕）</p> <p>【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕）</p> <p>【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」）</p> <p>【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り）</p> <p>【第7回】地球環境の変化と災害の関係性</p> <p>【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク）</p> <p>【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕）</p> <p>【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害）</p> <p>【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響）</p> <p>【第12回】災害級の感染症</p> <p>【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応</p> <p>【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーw i f iが整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
留意事項	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各学部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 b				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜6限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
<p>災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方を以て学修します。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <p>1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。</p> <p>2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。</p> <p>3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。</p> <p>4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積</p>					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。なお、AIの利用について否定しませんが、一見体裁の良い文章等を生成できる反面、利用する側（執筆者本人）の資質が問われることとなるので、十分留意してください。（いわゆる「執筆者本人の知識や理解のレベルを超える内容、AI利用がバレバレ状態」と思料される場合は減点対象となる。）			
評価割合	0%		
▼その他			
<p>授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。</p> <p>主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。</p> <p>※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。</p>			
評価割合	0%		

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」）</p> <p>【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など）</p> <p>【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕）</p> <p>【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕）</p> <p>【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」）</p> <p>【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り）</p> <p>【第7回】地球環境の変化と災害の関係性</p> <p>【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク）</p> <p>【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕）</p> <p>【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害）</p> <p>【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響）</p> <p>【第12回】災害級の感染症</p> <p>【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応</p> <p>【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーw i f iが整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
留意事項	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各学部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 c				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
<p>災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方を以て学修します。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <p>1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。</p> <p>2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。</p> <p>3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。</p> <p>4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積</p>					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。なお、AIの利用について否定しませんが、一見体裁の良い文章等を生成できる反面、利用する側（執筆者本人）の資質が問われることとなるので、十分留意してください。（いわゆる「執筆者本人の知識や理解のレベルを超える内容、AI利用がバレバレ状態」と思料される場合は減点対象となる。）			
評価割合	0%		
▼その他			
<p>授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等を行います。</p> <p>主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。</p> <p>※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。</p>			
評価割合	0%		

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」）</p> <p>【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など）</p> <p>【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕）</p> <p>【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕）</p> <p>【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」）</p> <p>【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り）</p> <p>【第7回】地球環境の変化と災害の関係性</p> <p>【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク）</p> <p>【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕）</p> <p>【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害）</p> <p>【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響）</p> <p>【第12回】災害級の感染症</p> <p>【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応</p> <p>【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーw i f iが整備されていますので、DXへの適応とペーパーレス、IoT環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
留意事項	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各学部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10151	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	科学技術の現在				
担当者	谷 尚樹、荻津 透				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	発問と応答		
授業の概要					
最先端科学をニュースや研究報告などを紹介しながら解説し、科学リテラシーの向上を目的とする。					
キーワード					
科学リテラシー、気候変動、資源エネルギー、農業・食料、遺伝子、再生医療、感染症対策、加速器、超伝導、ロボット、核融合、宇宙開発、水素、インターネット、暗号技術、人工知能、量子コンピュータ					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げた重要キーワードを暗記し、80%以上を解答できる。				
評価方法	講義ごとの小テスト 学期末筆記試験	評価割合	40～50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	科学技術に対して自分の知識、専門性を活かして現象が理解でき、生活に活かせる。さらに、科学の意義を認識し、その社会的な有効性と限界について考察する。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50～60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0～10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
以下の対象者は減点対象とする。 1. 遅刻者 2回で欠席1回とする。 2. 早退者 2回で欠席1回とする。 3. 授業中の私語 4. 人権侵害、差別的発言をした者					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>1 科学技術と社会 (谷 尚樹) 2 気候変動対策 (谷 尚樹) 3 資源エネルギー対策 (谷 尚樹) 4 農業 食料 (谷 尚樹) 5 医療1 遺伝子 予防医学 (谷 尚樹) 6 医療2 ヒトiPS細胞 再生医療 (谷 尚樹) 7 医療3 感染症対策 (谷 尚樹) 8 医療4 加速器超伝導応用 (荻津 透) 9 医療5 ロボット技術応用 (荻津 透)</p> <p>10 超伝導応用 (荻津 透) 11 原子炉と核融合 (荻津 透) 12 宇宙開発 (荻津 透) 13 水素技術 (荻津 透) 14 IT技術1: インターネット、暗号技術 (荻津 透) 15 IT技術2: AI, 量子コンピューター (荻津 透)</p> <p>定期試験 ※担当教員の突発的な事情(出張等)により、1～15の授業回を入れ替えることがあります。ご了解ください。どの回も独立した内容になっているので、授業回を入れ替えても理解には支障はありません。</p>
使用テキスト	なし
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。 科学に関するニュースを意識しておくこと。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応する。
授業時間外の連絡手段	学務部等に連絡。
留意事項	履修人員60人。 超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行います。抽選は初回授業で実施します。 初回授業に来ていない場合は原則履修を認めません。 ただし、初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡してください。

科目コード	10153	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	宇宙の探究 a				
担当者	荻津 透、池田 博				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	17. 発問と応答		
授業の概要					
宇宙や地球について人類が探究してきた歴史的な流れや現在の研究状況を学習する。 ニュース等で報じられる地球環境問題などを理解する。 南極や北極における人類の活動や低温・超伝導という最新の科学現象について理解を深める。					
キーワード					
天文学、宇宙探索、素粒子物理、地球温暖化、南極北極、超伝導重力計					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げた重要キーワードを暗記し80%解答できる。				
評価方法	講義ごとの小テスト。 学期末筆記試験。	評価割合	80~90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	宇宙探査、地球環境問題、北極南極研究などに対して自分の専門性を活かした提案ができる。				
評価方法	学期末筆記試験。	評価割合	10~20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
以下の対象者は減点対象とする。 1. 遅刻者 2回で1回欠席とする。 2. 早退者 2回で1回欠席とする。 3. 授業中の私語 4. 人権侵害、差別的発言をした者					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 (4/13) 宇宙と物質の大きさ (荻津) 第2回 (4/20) 天文学の歴史と社会 (荻津) 第3回 (4/27) 宇宙の始まりと物の起源 (荻津) 第4回 (5/11) 天体観測1: 光学望遠鏡、X線 (荻津) 第5回 (5/18) 天体観測2: 電波、ニュートリノ、重力波 (荻津) 第6回 (5/25) 物の起源の探究 (荻津) 第7回 (6/1) 太陽系と地球 (荻津) 第8回 (6/8) 生命の誕生と地球環境の変遷 (荻津) 第9回 (6/15) 地球の歴史の探究 (荻津) 第10回 (6/22) 気候変動と文明 (荻津) 第11回 (6/29) 低温ふしぎ現象 (池田) 第12回 (7/6) 南極観測 (池田) 第13回 (7/13) 北極観測 (池田) 第14回 (7/20) 超伝導現象 (池田) 第15回 (7/27) 超伝導重力計 (池田) 期末テスト (8/3) (池田)
使用テキスト	なし
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。 宇宙、地球環境に関するニュースを意識しておくこと。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応する。
授業時間外の連絡手段	学務部等に連絡。
留意事項	履修人員は100人程度。 超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行う。 抽選は初回授業で実施。 初回授業に来ていない場合は履修を認めない。 初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡必要。

科目コード	10153	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	宇宙の探究 b				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	17. 発問と応答		
授業の概要					
<p>宮澤賢治「銀河鉄道の夜」と谷口義明「天文学者が解説する 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」をテキストに用いて、童話に隠された最新の天文学について読み解いていきます。これにより、宇宙の新しい姿やなぜ人間が宇宙に興味を持つのかなどを想像できると思います。読み解く順序は、順序は全体の構成上、変更することがあります。</p> <p>また、内容の解釈は一つでないで、皆さんの意見を紹介することを行います。これらを下敷きに、みなさんとの議論が深まり、「銀河鉄道の夜」をより深く味わうことがようではありませんか。</p> <p>宮澤賢治「銀河鉄道の夜」は、インターネット図書館の青空文庫で自由に読むことができます。事前に読んでおきましょう。また、派生した映画など影響がある作品も紹介します。</p>					
キーワード					
銀河鉄道の夜、宇宙、天文、最新天文学、天体現象					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「銀河鉄道の夜」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 以下は、第2章『銀河鉄道の夜』を読む、から</p> <p>第2回 P. 71から [2] 午後の授業 その1</p> <p>第3回 P. 71から [2] 午後の授業 その2</p> <p>第4回 P. 108から [3] 家 [4] ケンタウル祭の夜 [5] 天気輪の柱</p> <p>第5回 P. 135 [6] 銀河ステーション その1</p> <p>第6回 P. 135 [6] 銀河ステーション その2</p> <p>第7回 P. 135 [6] 銀河ステーション その3</p> <p>第8回 P. 135 [6] 銀河ステーション その4</p> <p>第9回 P. 135 [6] 銀河ステーション その5</p> <p>第10回 P. 215 [7] 北十字とプリオシン海岸</p> <p>第11回 P. 229 [8] 鳥を捕る人</p> <p>第12回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その1</p> <p>第13回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その2</p> <p>第14回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その3</p> <p>第15回 最終回 第1章 (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)</p>
使用テキスト	宮澤賢治「銀河鉄道の夜」、谷口義明「天文学者が解説する 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などもお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員とします。

科目コード	10164	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	栄養と食生活				
担当者	助川 宏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>人生を生き生きと楽しく過ごすためには、健康な身体と精神の安定が大切です。そのためには、食事が大きくかかわっていることは皆さんもご存だと思います。</p> <p>生命力にあふれた自然な食材は豊富な栄養素を含み、さらに私たちのいのちのバランスを整える働きをもつといわれています。しかし、現代はそのような自然な食材から調理して食事をするよりも調理済みの食品を摂取しているほうが多いのではないのでしょうか。ある研究によれば、1日の総エネルギー摂取量のうち、超加工食品から平均して3~4割程度を摂取しているだけでなく、年齢が若い人や現在喫煙している人ほど、総エネルギー摂取量に占める超加工食品の割合が大きいことが示されました。超加工食品は、摂取量が多いと食事全体の質のバランスの低下につながるといった問題点があり、肥満や心血管疾患などとの関連性も報告されています。</p> <p>本来持つ自然な食材の力を利用した食事とはどんな食事でしょうか？その食事によってどんな変化があるのでしょうか？</p> <p>教員自身が20年に渡り実践し、健康寿命を延ばすための食養生を10年以上指導してきた経験をベースに西洋栄養学とはちょっと違った視点で食事と栄養についてお話しします。</p>					
キーワード					
自然食品、栄養、食事、生命力、食生活、健康、陰陽、食養、超加工食品、加工済み食品					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	本来持つ自然な食材の力とその力を利用した食事によっておこる変化について理解し、加工食品の摂りすぎに注意した食生活のあり方についての質問に対し概ね回答できる。				
評価方法	授業ワーク	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	本来持つ自然な食材の力とその力を利用した食事によっておこる変化について理解し考察できる。加工食品の摂りすぎに注意した食生活のあり方について考察し、自分の生活に今後どのように生かしていくかについてまとめることができる。				
評価方法	レポート2回	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。但し、欠席が多いと授業ワークが提出できないため評価が下がるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言、態度、提出課題および発表において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：食品の栄養価、人間の寿命と食生活、 第2回：基本の食べ物と歯の構成、健康料理とは 第3回：生命活動と健康づくり（消化吸収） 第4回：腸内細菌と健康づくり 第5回：自然が働く食養の力（SGDsにも貢献） 第6回：体質による食品の選び方 第1回目 レポート課題 「本来持つ自然な食材の力とその力を利用した食事とそれによって起こる変化」 提示テーマの中から選択</p> <p>第7回：養生訓 巻第一 総論上 第8回：養生訓 巻第二 総論下 第9回：養生訓 巻第三 第10回：養生訓 飲食上巻第四 第11回：養生訓 飲食上巻第五 第12回：養生訓 巻第六 慎病（病を慎む）巻第七 用薬（薬を用いふ） 第13回：家庭で作る体調を整える季節の料理と食べ物を使ったちよこっと手当 春・夏 第14回：家庭で作る体調を整える季節の料理と食べ物を使ったちよこっと手当 秋・冬 第15回：超加工食品と断食の有効性 第2回 レポート課題「加工食品の摂りすぎに注意した食生活のあり方について」</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は、授業時UNIPAに掲示

<p>予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等</p>	<p>予習必要なし。 授業後、掲示資料について復習するとともに資料にはない関連事項に関して、主体的に取り組み知見を深めることが望ましい。</p> <p>参考図書： ①「養生訓」 著者：貝原益軒、城島明彦（訳） 致知出版社 ②「からだの自然治癒力をひきだす食事と手当て」 [令和版] 著者：大森一慧 サンマーク出版 ③「オールカラー版 基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」著者：平馬直樹（監修），浅川 要（監修），辰巳 洋（監修） 出版社：ナツメ社 ④「いちばんやさしい!マクロビオティックおいしいレシピ98」 著者：大森一慧 新星出版社 ⑤からだの自然治癒力をひきだす「毎日のごはん」 著者：大森一慧 サンマーク出版</p>
<p>障がいのある 履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡 手段</p>	<p>まずはUNIPAにてご連絡ください。</p>
<p>留意事項</p>	<p>特になし。</p>

科目コード	10166	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスII c				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	演習
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	03. 実験・実技・体験		
授業の概要					
<p>私たちの日常や社会活動はIT（情報技術）や通信網の利用が不可欠であり、将来、AI技術をはじめとしたデータサイエンスの活用がますます進められることが確実視されています。本講義では現代の大学生が知っておくべきデータサイエンスの基礎について講義をします。数理的なデータ分析手法を学習し、Excelを用いて処理する解法を実習します。（社会におけるデータAIの活用）</p> <p>データ表現やアルゴリズム、プログラミングについて学びます。（データリテラシー）</p> <p>深層学習の基礎を学習し、最新AIモデルの中身も学習します。（データ・AI活用における留意事項）</p>					
<p>※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの応用的内容の講義および演習を行います。</p>					
高等学校 情報科_授業資料_生徒向け_情報I_情報II					
<p>※ データサイエンスIIのcおよびdクラスは「PC教室」を利用するクラスです。そのため、BYODにおける「ノートPC所有者」「タブレット所有者」のどちらもcおよびdクラスを履修することができます。特に「タブレット所有者」はcおよびdクラスでのみ履修可能です（aおよびbクラスは一般教室での開講のため「ノートPC所有者」のみ履修可能）。</p>					
キーワード					
表計算、グラフ、統計学、オペレーションズ・リサーチ (OR)、Excel、Collaboratory、JASP、Windows、PC					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	表計算ソフトおよびプログラミング言語を利用して基本的な統計処理やオペレーションズ・リサーチ (OR) 手法によるデータ処理が行える。				
評価方法	期末試験（課題演習）	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	統計処理やシミュレーションで得られた結果をもとに、原因の推論や考察ができる。				
評価方法	実習課題で作成されたファイルを提出させ採点する。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 授業ガイダンス</p> <p>【第02回】 Excel操作の基礎 数値データ・文字列データの入力、参照（絶対・相対）、演算処理 オートフィル フラッシュフィル 関数</p> <p>【第03回】 データの特徴を読む1 代表値：データの中心 各種平均値</p> <p>【第04回】 データの特徴を読む2 代表値：データの中心 中央値、最頻値</p> <p>【第05回】 データの特徴を読む3 代表値：データの中心と端 トリム平均値とレンジ</p> <p>【第06回】 データの特徴を読む4 記述統計量：データのばらつき 分散、標準偏差</p> <p>【第07回】 データの特徴を見る1 データの標準化</p> <p>【第08回】 データの特徴を見る2 データの種類とグラフ</p> <p>【第09回】 対応しているデータの関係を知る 散布図、相関係数 関数近似</p> <p>【第10回】 対応しているデータから予測する1 回帰式と予測値</p> <p>【第11回】 対応しているデータから予測する2 多項式回帰、最適化問題</p> <p>【第12回】 時系列データから規則性を知る1 移動平均と季節変動値</p> <p>【第13回】 時系列データから規則性を知る2 季節調整 AR, MA, ARIMA</p> <p>【第13回】 データの特徴を読む・見る 度数分布表とヒストグラム、外れ値</p> <p>【第14回】 データが属するグループを判別する 分類問題 判別分析、クラスタ分析</p> <p>【第15回】 データに分析をゆだねる データ駆動モデル、ニューラルネットワーク、人工知能 微分・積分 微分方程式</p> <p>期末試験</p>
使用テキスト	<p>エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（近代科学社） 978-4764960565</p> <p><a href="http://maa.u.icc.ac.jp/cp/">http://maa.u.icc.ac.jp/cp/</a>（学内アクセスのみ）</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>実習で使用する Excel（コンピュータ基礎II）の基本操作については、各自の技量に応じて適宜予習や復習を行ってください。</p>

障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	Teams の当該科目チーム内（投稿）で対応します。
留意事項	<p>教養課程の「はじめての統計学」を併せて履修（後でも先でも）するとより理解が深まります。googleアカウント、(Collaboratory, Bard)および Bingアカウント（個人で無料で作成できるもの）を取得しておいてください。</p> <p>※ データサイエンスⅡのcおよびdクラスは「PC教室」を利用するクラスです。そのため、BYODにおける「ノートPC所持者」「タブレット所持者」のどちらも cおよびdクラス を履修することができます。特に「タブレット所持者」はcおよびdクラス でのみ履修可能です（aおよびbクラスは一般教室での開講のため「ノートPC所持者」のみ履修可</p>

科目コード	10166	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスII d				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	演習
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	03. 実験・実技・体験		
授業の概要					
<p>私たちの日常や社会活動はIT（情報技術）や通信網の利用が不可欠であり、将来、AI技術をはじめとしたデータサイエンスの活用がますます進められることが確実視されています。本講義では現代の大学生が知っておくべきデータサイエンスの基礎について講義をします。数理的なデータ分析手法を学習し、Excelを用いて処理する解法を実習します。（社会におけるデータAIの活用）  データ表現やアルゴリズム、プログラミングについて学びます。（データリテラシー）  深層学習の基礎を学習し、最新AIモデルの中身も学習します。（データ・AI活用における留意事項）</p> <p>※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの応用的内容の講義および演習を行います。</p> <p>高等学校 情報科_授業資料_生徒向け_情報I_情報II</p> <p>※ データサイエンスIIのcおよびdクラスは「PC教室」を利用するクラスです。そのため、BYODにおける「ノートPC所有者」「タブレット所有者」のどちらか cおよびdクラス を履修することができます。特に「タブレット所有者」はcおよびdクラス でのみ履修可能です（aおよびbクラスは一般教室での開講のため「ノートPC所有者」のみ履修可能）。</p>					
キーワード					
表計算、グラフ、統計学、オペレーションズ・リサーチ (OR)、Excel、Collaboratory、JASP、Windows、PC					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	表計算ソフトおよびプログラミング言語を利用して基本的な統計処理やオペレーションズ・リサーチ (OR) 手法によるデータ処理が行える。				
評価方法	期末試験（課題演習）	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	統計処理やシミュレーションで得られた結果をもとに、原因の推論や考察ができる。				
評価方法	実習課題で作成されたファイルを提出させ採点する。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 授業ガイダンス</p> <p>【第02回】 Excel操作の基礎 数値データ・文字列データの入力、参照（絶対・相対）、演算処理 オートフィル フラッシュフィル 関数</p> <p>【第03回】 データの特徴を読む1 代表値：データの中心 各種平均値</p> <p>【第04回】 データの特徴を読む2 代表値：データの中心 中央値、最頻値</p> <p>【第05回】 データの特徴を読む3 代表値：データの中心と端 トリム平均値とレンジ</p> <p>【第06回】 データの特徴を読む4 記述統計量：データのばらつき 分散、標準偏差</p> <p>【第07回】 データの特徴を見る1 データの標準化</p> <p>【第08回】 データの特徴を見る2 データの種類とグラフ</p> <p>【第09回】 対応しているデータの関係を知る 散布図、相関係数 関数近似</p> <p>【第10回】 対応しているデータから予測する1 回帰式と予測値</p> <p>【第11回】 対応しているデータから予測する2 多項式回帰、最適化問題</p> <p>【第12回】 時系列データから規則性を知る1 移動平均と季節変動値</p> <p>【第13回】 時系列データから規則性を知る2 季節調整 AR, MA, ARIMA</p> <p>【第13回】 データの特徴を読む・見る 度数分布表とヒストグラム、外れ値</p> <p>【第14回】 データが属するグループを判別する 分類問題 判別分析、クラスタ分析</p> <p>【第15回】 データに分析をゆだねる データ駆動モデル、ニューラルネットワーク、人工知能 微分・積分 微分方程式</p> <p>期末試験</p>
使用テキスト	<p>エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（近代科学社） 978-4764960565</p> <p><a href="http://maa.u.icc.ac.jp/cp/">http://maa.u.icc.ac.jp/cp/</a>（学内アクセスのみ）</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>実習で使用する Excel（コンピュータ基礎II）の基本操作については、各自の技量に応じて適宜予習や復習を行ってください。</p>

障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	Teams の当該科目チーム内（投稿）で対応します。
留意事項	<p>教養課程の「はじめての統計学」を併せて履修（後でも先でも）するとより理解が深まります。googleアカウント、(Collaboratory, Bard)および Bingアカウント（個人で無料で作成できるもの）を取得しておいてください。</p> <p>※ データサイエンスⅡのcおよびdクラスは「PC教室」を利用するクラスです。そのため、BYODにおける「ノートPC所持者」「タブレット所持者」のどちらも cおよびdクラス を履修することができます。特に「タブレット所持者」はcおよびdクラス でのみ履修可能です（aおよびbクラスは一般教室での開講のため「ノートPC所持者」のみ履修可</p>

科目コード	12041	科目ナンバリング	EN20C24K	主な使用言語	英語・日本語
授業名	観光英語 a				
担当者	澤井 萌				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	演習
曜日時限	月曜3限	履修可能学科等		E Pe Pc G W F N M L	
関連資格			AL要素	02. 模擬実践 07. 発表 08. 協同学修 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答	
授業の概要					
<p>訪日外国人旅行者の数が急増している。本科目では、接客からガイドングまで様々な訪日旅客とのコミュニケーションを想定した場面練習を通じて、「観光英語」の実践的な運用手法と様々な英語表現力を身につける。</p> <p>茨城県を含む様々な観光地の魅力について知り、それらを英語で発信する表現力を身につける。</p> <p>教員のインバウンドビジネスにおける実務経験に基づき、ツアープロシヤの作成や観光地(キャンパスもしくは大甕神社などの近隣施設を想定)での英語でのガイドング体験など、学修した観光英語を実践する場面も複数用意し、観光英語をツールとして使う楽しさを授業を通じて体感する。</p> <p>通訳案内士の方に講義をしていただく機会を設け、観光実務に関する理解を深める。</p>					
<p>対象学生</p> <p>将来留学先でツーリズムを学習したい方</p> <p>インバウンドツーリズムでの就職や事業に関心のある方</p>					
キーワード					
観光英語, インバウンド, 観光関連の基礎知識, ガイディング					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	様々な場面で使用される観光英語に関する知識と技能を身に付け、その内容の概ね80%を理解し、解答することができる。 学期末試験のレベルは英語検定2級 (CEFR:A2-B1)を想定している。				
評価方法	学期末試験(30%)	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	ガイドング、プレゼンテーションといった様々な言語活動を通して、自分の考えを相手に伝えることができる。またクラスメートの発表についてその内容の概ね80%を理解することができる。				
評価方法	授業ごとのタスク ① 英文旅程表の作成 : 10% ② 英文旅程表の共有と発表 : 10% ② 模擬ガイドング (グループ) : 15% ③ 模擬ガイドング (個人) : 15%	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業後のミニッツペーパーによる授業へのフィードバック(15回分)					
コメントのないもの及び既定の文字数に達しないものは点数としてカウントしないので注意すること					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第01回: Orientation</p> <p>第02回: English for tourism professionals</p> <p>第03回: English used by travel agencies</p> <p>第04回: English used by tour escorts (1)</p> <p>第05回: English used by tour escorts (2)</p> <p>第06回: Sightseeing spots in Japan (1)</p> <p>第07回: Sightseeing spots in Japan (2)</p> <p>第08回: Making a tour itinerary in English (1)</p> <p>第09回: Making a tour itinerary in English (2) / Show and tell about your itinerary</p> <p>第10回: Preparation for mock guiding (1)</p> <p>第11回: Preparation for mock guiding (2)</p> <p>第12回: Mock guiding (1)</p> <p>第13回: Mock guiding (2)</p> <p>第14回: The lecture from an English speaking guide (* subject to change)</p> <p>第15回: Review / Instructions for the final exam</p> <p>第16回: 定期試験</p>
使用テキスト	<p>[使用テキスト]</p> <p>・なし。適宜資料を事前に配布、もしくはTeamsに配信する。</p> <p>[参考書・参考資料]</p> <p>・藤田 玲子『English for Tourism Professionals』センゲージラーニング</p> <p>・JNTO 訪日インバウンド市場別情報 <a href="https://www.jnto.go.jp/statistics/market-info/">https://www.jnto.go.jp/statistics/market-info/</a></p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>事前学習（2時間） 授業範囲の英単語、英語表現、本文の内容の確認</p> <p>事後学習（2時間） 授業後のミニツッペーパーの提出 講義ごとに課される課題（次回の講義時に提出） 音源等を活用した音読練習</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>b. この授業は基本的に英語で行われるが、必要があれば日本語で説明もされる。 ※ただし留学生や海外大からの聴講生が参加する場合は完全に英語での授業となる。</p> <p>旅程、プレゼンテーション、ガイディングといったインバウンドビジネスにおける観光英語を活用する実践的な場面を想定した活動に取り組むため、積極的に英語でコミュニケーションを取ることが望ましい。特に英語での発話が多いため、物おじせず、文法的なミスを恐れずに英語で表現する姿勢を大切にしたい。 頻繁に意見を述べることで発話することが求められる。 予習、授業、復習を通じて英語のインプット、アウトプットの習慣を定着させる。</p> <p>この科目は履修者数を最大で25名程度とする。 これを超える履修希望者数の場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。</p> <p>履修にあたっては以下の条件のうちいずれかを満たしていることが望ましい。 初回講義にてスコアを取得している場合は申告すること。成績算出の際に加点する。</p> <p>①英語検定準2級（CEFR A1-A2/高校中級程度） ②TOEIC L&amp;R SCORE 500-550点（公式TOEIC、学内TOEICを問わない）</p>

科目コード	12041	科目ナンバリング	EN20C24K	主な使用言語	英語・日本語
授業名	観光英語 b				
担当者	澤井 萌				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	演習
曜日時限	水曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F N M L		
関連資格		AL要素	02. 模擬実践 07. 発表 08. 協同学修 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>訪日外国人旅行者の数が急増している。本科目では、接客からガイドングまで様々な訪日旅客とのコミュニケーションを想定した場面練習を通じて、「観光英語」の実践的な運用手法と様々な英語表現力を身につける。</p> <p>茨城県を含む様々な観光地の魅力について知り、それらを英語で発信する表現力を身につける。</p> <p>教員のインバウンドビジネスにおける実務経験に基づき、ツアープロシヤの作成や観光地(キャンパスもしくは大甕神社などの近隣施設を想定)での英語でのガイドング体験など、学修した観光英語を実践する場面も複数用意し、観光英語をツールとして使う楽しさを授業を通じて体感する。</p> <p>通訳案内士の方に講義をしていただく機会を設け、観光実務に関する理解を深める。</p>					
対象学生					
将来留学先でツーリズムを学習したい方					
インバウンドツーリズムでの就職や事業に関心のある方					
キーワード					
観光英語, インバウンド, 観光関連の基礎知識, ガイドング					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	様々な場面で使用される観光英語に関する知識と技能を身に付け、その内容の概ね80%を理解し、解答することができる。 学期末試験のレベルは英語検定2級 (CEFR:A2-B1)を想定している。				
評価方法	学期末試験(30%)	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	ガイドング、プレゼンテーションといった様々な言語活動を通して、自分の考えを相手に伝えることができる。またクラスメートの発表についてその内容の概ね80%を理解することができる。				
評価方法	授業ごとのタスク ① 英文旅程表の作成 : 10% ② 英文旅程表の共有と発表 : 10% ② 模擬ガイドング (グループ) : 15% ③ 模擬ガイドング (個人) : 15%	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業後のミニッツペーパーによる授業へのフィードバック(15回分)					
コメントのないもの、既定の文字数に達していないものは点数としてカウントしないので注意すること					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 : Orientation 第02回 : English for tourism professionals 第03回 : English used by travel agencies 第04回 : English used by tour escorts (1) 第05回 : English used by tour escorts (2) 第06回 : Sightseeing spots in Japan (1) 第07回 : Sightseeing spots in Japan (2) 第08回 : Making a tour itinerary (1) 第09回 : Making a tour itinerary (2) / Show and tell about your itinerary 第10回 : Preparation for mock guiding (1) 第11回 : Preparation for mock guiding (2) 第12回 : Mock guiding (1) 第13回 : Mock guiding (2) 第14回 : The lecture from an English speaking guide 第15回 : Review / Instructions for the final exam 第16回 : 定期試験
使用テキスト	[使用テキスト] ・なし。適宜資料を事前に配布、もしくはTeamsに配信する。  [参考書・参考資料] ・藤田 玲子『English for Tourism Professionals』センゲージラーニング ・JNTO 訪日インバウンド市場別情報 <a href="https://www.jnto.go.jp/statistics/market-info/">https://www.jnto.go.jp/statistics/market-info/</a>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>事前学習（2時間） 授業範囲の英単語、英語表現、本文の内容の確認</p> <p>事後学習（2時間） 授業後のミニツッペーパーの提出 講義ごとに課される課題（次回の講義時に提出） 音源等を活用した音読練習</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>b. この授業は基本的に英語で行われるが、必要があれば日本語で説明もされる。 ※ただし留学生や海外大からの聴講生が参加する場合は完全に英語での授業となる。</p> <p>旅程、プレゼンテーション、ガイディングといったインバウンドビジネスにおける観光英語を活用する実践的な場面を想定した活動に取り組むため、積極的に英語でコミュニケーションを取ることが望ましい。特に英語での発話が多いため、物おじせず、文法的なミスを恐れずに英語で表現する姿勢を大切にしたい。 頻繁に意見を述べることで発話することが求められる。 予習、授業、復習を通じて英語のインプット、アウトプットの習慣を定着させる。</p> <p>この科目は履修者数を最大で25名程度とする。 これを超える履修希望者数の場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。</p> <p>履修にあたっては以下の条件のうちいずれかを満たしていることが望ましい。 初回講義にてスコアを取得している場合は申告すること。成績算出の際に加点する。</p> <p>①英語検定準2級（CEFR A1-A2/高校中級程度） ②TOEIC L&amp;R SCORE 500-550点（公式TOEIC、学内TOEICを問わない）</p>

科目コード	12079	科目ナンバリング	EN20C42K	主な使用言語	日本語
授業名	児童文学（英語圏）				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	演習
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
英語圏における児童文学の展開を具体的な作品を読みながら確認します。語学的に正しく作品を読むこと、次に想像力をふくらませながら作品を読むこと、とくにこの2点を意識して読んでいきます。原文で作品を読める語学力を養うとともに、英語圏の児童文学の背景にある歴史や文化についても学んでいきます。					
キーワード					
イギリス文学, 児童文学, 文化史					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	英語圏の児童文学を読んで味わえるための英語力を身につける。児童文学の文化的背景について理解し、それを敷衍して説明できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	文学作品を読んで、その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し、その内容を適切な文章で表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：児童文学とは何か</p> <p>第2回：チャールズ・キングズリー『水の子どもたち』</p> <p>第3回：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』</p> <p>第4回：ジョージ・マクドナルド『北国のうしろの国』</p> <p>第5回：ピエトリクス・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』</p> <p>第6回：ケネス・グレアム『たのしい川べ』</p> <p>第7回：パメラ・L・トラヴァース『風にのってきたメアリー・ポピンズ』</p> <p>第8回：ジェームズ・マシュー・バリ『ピーター・パンとウェンディ』</p> <p>第9回：アラン・アレクサンダー・ミルン『クマのプーさん』</p> <p>第10回：マイケル・ポンド『くまのパディントン』</p> <p>第11回：フランシス・バーネット『秘密の花園』</p> <p>第12回：ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』</p> <p>第13回：C・S・ルイス『ライオンと魔女と衣装だんす』</p> <p>第14回：J・R・R・トールキン『ホビットの冒険』</p> <p>第15回：J・R・R・トールキン『指輪物語』</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習では授業で読むテキストの当該箇所を、辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと（90分）。復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること（90分）。またできるだけ児童文学作品を読む機会（日本語訳で可）を増やすこと。参考書として、瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝夫『英米児童文学史』（研究社、1971）、谷本誠剛『児童文学入門』（研究社、1995）、日本イギリス児童文学会編『英米児童文学ガイド』（研究社、2001）。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	随時IC-Mail（hiro-kanno@icc.ac.jp）により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。
留意事項	この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード	12165	科目ナンバリング	EN10C04K	主な使用言語	日本語・英語
授業名	ホスピタリティ論				
担当者	澤井 萌				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>「ホスピタリティ」は、いわゆるホスピタリティ産業だけに関係する概念ではなく、私たちが日々の暮らしのなかで大切にしなければならない「相手を思いやる気持ち」と深く関係している考え方です。本授業の前半では、幅広い意味でのホスピタリティの概念を学び、中盤では、さまざまな事例に触れ、そして後半では、ホスピタリティの適用と実践について、学んでいきます。授業は、ワークシートを用いた受講生間でのディスカッションを交えながら、実務家教員の民間企業での経験を共有しながら、進めていきます。</p>					
キーワード					
ホスピタリティ、おもてなし、サービス、ホスピタリティ産業					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	①ホスピタリティの意味・役割・価値について理解し、自分の言葉で説明することができる ②観光業におけるホスピタリティのあり方について自分の考え方を持つことができる				
評価方法	課題・レポート	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	①ホスピタリティについての自らの考えを持ち、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。 ②ホスピタリティについての自らの考えを持ち、日常生活・社会生活のなかで、行動に移すことができる。 ③クラスメートの意見に傾聴し、その内容の概ね80%を理解することができる。				
評価方法	グループ発表① グループ評価：10% 個人評価：10%	評価割合	60%		
	グループ発表② グループ評価：10% 個人評価：10%				
	ミニッツペーパーによる授業へのフィードバック(15回)：20% 既定の文字数に満たない場合は評価の対象外とする。 フィードバックの提出期限は原則同日の23:59とする。				
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への取り組み姿勢、授業への貢献度(発言、質問)を評価対象とする。					
評価割合	※思考・判断・表現と併せて評価する。				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>ホスピタリティとは何か(定義・ホスピタリティ産業概観)</li> <li>ホスピタリティにまつわる議論“お客様は神様か?”</li> <li>ホスピタリティとブライダル産業</li> <li>ホスピタリティとテーマパーク</li> <li>グループ発表準備：シン・〇〇プロジェクト あなたの身近なテーマパークを再生しよう</li> <li>グループ発表と質疑応答(1)</li> <li>グループ発表と質疑応答(2)</li> <li>日本のおもてなしと訪日外国人旅行者 国により異なるおもてなしの捉え方</li> <li>ホスピタリティと旅行会社(市場分析)</li> <li>ホスピタリティと旅行会社(ケーススタディ)</li> <li>グループ発表準備</li> <li>グループ発表と質疑応答(1)</li> <li>グループ発表と質疑応答(2)</li> <li>あなたのホスピタリティの定義・全体のまとめ</li> </ol>
使用テキスト	<p>使用テキストは毎回資料及びワークシートを共有する。 事前に内容を理解し、議論ができる準備を整えてから講義に参加すること。</p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習については、各授業時に指示します。教科書の学習範囲を読み、指示する課題（ワークシート）に取り組んでから、授業に出席する必要があります。（120分）          授業で使用するパワーポイントスライドは、Microsoft Teamsに掲載します。          授業後の復習では、スライドを参考にしながら、自分のノートをまとめ（120分）、レポート課題に備えてください。また、日頃から、講義内容に関連する新聞記事やニュース、ドキュメンタリー番組などに注目し、批判的に読む・見ること、で、「ホスピタリティ」に対する自分なりの考えをもつように努めてください。</p> <p>参考文献          ① 飯島 好彦 他 著『ホスピタリティ産業論』、創成社（2021 年）          ISBN:978-4-7944-2592-8</p> <p>② 地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修 英語テキスト初級  <a href="https://inboundkenshu.com/assets/pdf/training_materials/english_text_beginner.pdf">https://inboundkenshu.com/assets/pdf/training_materials/english_text_beginner.pdf</a></p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>c. この授業は英語と日本語の両方で行われる。</p> <p>毎回の講義では教員が頻繁に学生の考えや意見を求める場面がある。          また小グループでのディスカッションや発表も複数回行うので積極的に発言する姿勢が求められる。          小グループは頻繁にメンバーを変更するため、物おしせず他のメンバーと協働するよう努める。</p>

科目コード	13554	科目ナンバリング	PE11C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究I				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F M L		
関連資格	教職 社教	AL要素	08 : 協同学習 09 : 実地調査 17 : 発問と回答		
授業の概要					
<p>私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や、茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中から、小中学校における社会科教育および総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。</p>					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科における地域教材開発					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形、歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べるができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：地域社会研究の意義と活用  第3回：現地観察—大学周辺の歴史・文化財—  第4回：地域社会研究の学校教育への応用  第5回：地域社会研究の社会教育への応用  第6回：現地観察—石名坂町西の妻古墳など—  第7回：地図の種類と地図記号及びその由来  第8回：地形図の読み方と利用—三角点と水準点、土地利用、プレートなど—  第9回：地形の形成—河川地形と海岸地形—  第10回：日立市と茨城県の地形の特色—海岸段丘と日本最古の地層—  第11回：現地観察—田楽鼻の水木遠見番所跡など—  第12回：地域の史蹟を調べる—日立市南部地区を例に—  第13回：地域の史蹟を調べる—日立市を中心にして—  第14回：江戸時代末期の水戸藩  第15回：地域の近現代史を調べる—日立市を例に—  学期末試験</p>
使用テキスト	資料は講師が用意する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから自分の地域に住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応する。曜日時間等については、授業時に連絡する。
留意事項	授業時間内に本学周辺を野外観察します。（前期3回、後期2回程度予定）その際は歩きやすい服装で対応願います。

科目コード	13555	科目ナンバリング	PE12C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究II				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等		E Pe Pc C W F M L	
関連資格	教職 社教	AL要素	08 : 協同学習 09 : 実地調査 17 : 発問と回答		
授業の概要					
<p>私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や、茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中から、小中学校における社会科教育および総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。</p>					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科における地域教材開発					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形、歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べるができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：地域社会研究の各論1-地域の活性化を目指す地域社会研究-</p> <p>第2回：地域社会研究の各論2-まちづくり論と社会参画-</p> <p>第3回：地域社会研究の各論3-地域コミュニティー-</p> <p>第4回：地域社会研究の各論4-環境と防災-</p> <p>第5回：現地観察-イトヨの里、泉神社「常陸風土記」など-</p> <p>第6回：身近な地域の文化・民俗調査の方法1</p> <p>第7回：身近な地域の文化・民俗調査の方法2</p> <p>第8回：地域の文化財とその保護</p> <p>第9回：ユネスコ無形文化遺産-日立風流物やささらなど-</p> <p>第10回：「常陸風土記」について</p> <p>第11回：身近な地域の社会基盤整備について</p> <p>第12回：現地観察-森山浄水場-</p> <p>第13回：地域の産業構造を調べる</p> <p>第14回：日立市及び茨城県の産業構造1-農林水産業-</p> <p>第15回：日立市及び茨城県の産業構造2-鉱工業-</p> <p>日立市及び茨城県の産業構造3-商業-</p> <p>学期末試験</p>
使用テキスト	資料は講師が用意する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから自分の地域に住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応します。曜日時間等については、授業時に連絡します。
留意事項	授業時間内に本学周辺を野外観察します。(前期3回、後期2回程度予定) その際は歩きやすい服装で対応願います。

科目コード	14133	科目ナンバリング	CG20C02K	主な使用言語	日本語
授業名	日本語学A				
担当者	三谷 絵里				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F M L		
関連資格	日本語	AL要素	15. レポート指導 17. 発問と回答		
授業の概要					
毎日何気なく話している母語も、非母語話者から見ると不可解なことが数多くある。この授業では「音声学・音韻論」および「文法論」を通して、今まで意識していなかった日本語の面白さや不思議さを考える。					
キーワード					
日本語 音声 音韻 文法					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	日本語学の基礎知識・考え方を身につける。		
評価方法	ほぼ毎回化される課題とレポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	日本語を先入観にとらわれない相対的な視点からみる力、および学問的な方法で分析する術を身につける。		
評価方法	ほぼ毎回課される課題とレポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
評価割合には含めない。学修に主体的に取り組んでほしい。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
もとめない			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。			
評価割合	0%		
▼その他			
なし			
評価割合	0%		

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス 日本語学とは</li> <li>2. 母語話者にとっての「日本語」、非母語話者にとっての「日本語」</li> <li>3. 日本語の音声(1) 音声学・音韻論とは</li> <li>4. 日本語の音声(2) 子音・母音</li> <li>5. 日本語の音声(3) 拍と特殊拍・アクセント・イントネーション</li> <li>6. 日本語の方言 分類・地域差・ネオ方言</li> <li>7. 日本語の文法(1) 文法論とは</li> <li>8. 日本語の文法(2) 動詞</li> <li>9. 日本語の文法(2) 格</li> <li>10. 日本語の文法(3) 敬語</li> <li>11. 日本語の文法(4) ヴォイス</li> <li>12. 日本語の文法(5) テンス・アスペクト</li> <li>13. 日本語の文法(6) モダリティ</li> <li>14. 語用論</li> <li>15. 総括、レポート提出</li> </ol>
使用テキスト	<p>庵功雄 日高水穂 前田直子 山田敏弘 大和シゲミ『やさしい日本語のしくみ 改訂版 日本語学の基本』くろしお出版</p> <p>この本は日常生活の疑問をもとに日本語の概説が書かれており、入門書としても非常に興味深い内容となっている。授業ですべて扱うことはしないが、興味を持った章を読み進めてほしい。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>原則として、毎回小課題や疑問について考える時間を設ける。授業後にはより詳しく内容を深めてほしい。ささいな疑問でも構わないので、日常的に日本語の使用に興味や関心を持って観察してほしい。</p> <p>参考書</p> <p>興味を持った学生は 庵功雄 『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク 滝浦真人 『日本語学入門』放送大学 などで理解を深めてほしい。</p>
障がいのある履修者への対応	申し出があれば対応します。事前に学務に相談してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業で指示します。
留意事項	前期「日本語学A」・後期「日本語B」両方の授業で日本語学全体を扱う。

科目コード	14134	科目ナンバリング	CG20C03K	主な使用言語	日本語
授業名	日本語学B				
担当者	三谷 絵里				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F M L		
関連資格	日本語	AL要素	15. レポート指導 17. 発問と回答		
授業の概要					
この授業では「語彙論」および「文字・表記論」を扱通して、引き続き日本語の面白さや不思議さを考える。授業では、担当教員の日本語教師としての経験を共有することにより、受講生の理解を深めていく。					
キーワード					
日本語 語彙 文字 意味					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	日本語学の基礎知識・考え方を身につける。				
評価方法	ほぼ毎回課される課題とレポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	日本語を先入観にとらわれない相対的な視点からみる力、および学問的な方法で分析する術を身につける。				
評価方法	ほぼ毎回課される課題とレポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
評価割合には含めない。学修に主体的に取り組んでほしい。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
もとめない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。					
評価割合	0%				
▼その他					
なし					
評価割合	0%				

授業計画	1. 授業ガイダンスー日本語学とはー 2. 日本語の語彙(1) 単語の意味 3. 日本語の語彙(2) 品詞 4. 日本語の語(3) 位相・役割語・オノマトペ 5. 日本語の語彙(4) 単語の体系 6. 日本語の語彙(5) 和語・漢語・外来語 7. 日本語の語(6) 語構成 8. 日本語の文字・表記(1) 文字のはたらき 9. 日本語の文字・表記(2) 日本語の文字 10. 日本語の文字・表記(3) ひらがな・カタカナの成立と使われ方 11. 日本語の文字・表記(4) 漢字の使われ方 12. 日本語の文と文章 13. 日本語の談話 14. コーパス言語学 15. 総括、レポート提出
使用テキスト	なし(ハンドアウトを配布する)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	原則として、毎回小課題や疑問について考える時間を設ける。授業後にはより詳しく内容を深めてほしい。ささいな疑問でも構わないので、日常的に日本語の使用に興味や関心を持って観察してほしい。  参考書 庵功雄 日高水穂 前田直子 山田敏弘 大和シゲミ 『やさしい日本語のしくみ 改訂版 日本語学の基本』くろしお出版 この本は日常生活の疑問をもとに日本語の概説が書かれており、入門書としても非常に興味深い内容となっている。授業ですべて扱うことはしないが、興味を持った章を読み進めてほしい。
障がいのある履修者への対応	申し出があれば対応します。事前に学務に相談してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業で指示します。
留意事項	前期「日本語学A」・後期「日本語B」両方の授業で日本語学全体を扱う。

科目コード	14204	科目ナンバリング	CG20C09K	主な使用言語	日本語		
授業名	民俗学						
担当者	清水 博之						
基本情報	<h1 style="color: red;">聴講不可になりました</h1>						
年次						2年	講義
曜日時限						金曜4限	M L
関連資格						学芸	
授業の概要							
<p>民俗学は「内省の学」ともいわれています。私たちの生活の中で伝えられてきたさまざまな事象を掘り下げて考察し、現代を生きる私たち自身の思考や行動の根源を探求しようとする学問です。この授業のテーマは、民俗学という学問を通して「日本人とは何か」を解明することです。具体的には、私たちが日常生活の中で経験するさまざまな物事を民俗学ならではの視点と方法で考究します。</p> <p>とはいっても、民俗学は私たちが日頃から当たり前と思っていることの本来の意味を解き明かしてくれる身近な学問でもあります。自分自身の幼い頃からの経験を思い出しながら楽しく学修しましょう。授業では毎回テーマに沿って講義をしますが、ときには履修生との会話の中から民俗学的な課題を紐解いていくこともあるでしょう。茨城県内はもとより、日本のみならず海外のさまざまな民俗事象もできるだけ紹介していきます。</p> <p>なお、毎回の授業終了後にはリアクションペーパーを課します。これらは成績評価の対象となります。</p> <p>今年度は、ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」の4基すべてが7年に1度公開される年です。履修生は学外授業としてこの公開事業に参加して民俗文化を実体験します。</p>							
キーワード	日本民俗学、柳田國男、内省の学、日本人、沖縄、移民、口承伝承、通過儀礼、年中行事、祭り・行事、婚姻、つきあい、学校の怪談、生と死、カミとホトケ						

学位授与方針との関係	
▼知識・技能	
到達目標	民俗学の基本的な知識と考え方を理解して説明することができる。
評価方法	授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）などにより総合的に評価する。
評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力	
到達目標	授業で扱った内容について自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。
評価方法	授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）などにより総合的に評価する。
評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度	
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やリアクションペーパーの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。	
評価割合	0%
▼実践的ボランティア	
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが筆記試験（リアクションペーパー・期末レポートなどを含む）の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。	
評価割合	0%
▼公正性	
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。	
評価割合	0%
▼その他	
特になし。	
評価割合	0%

授業計画	<p>【第01回】 オリエンテーション「民俗学へのいざない」</p> <p>【第02回】 民俗学とは…「日本人の心を探る」</p> <p>【第03回】 事前学修「日立風流物」(1)</p> <p>【第04回】 事前学修「日立風流物」(2)</p> <p>【第05回】 ~ 学外授業「日立風流物」体験</p> <p>【第07回】</p> <p>【第08回】 事後学修「日立風流物」</p> <p>【第09回】 学校の怪談「怖い話は好きですか」</p> <p>【第10回】 墓参りと先祖供養「盆と正月」</p> <p>【第11回】 通過儀礼と人生儀礼「おとなの階段をのぼる」</p> <p>【第12回】 沖縄の民俗と移民「私たちはどこから来たのか」</p> <p>【第13回】 コンビニで知る年中行事「恵方巻は伝統ですか」</p> <p>【第14回】 あの世への旅立ちといのちの誕生「死…、そして生」</p> <p>【第15回】 まとめ：日本人とは何か</p> <p>定期試験（期末レポートに代替する場合があります）</p> <p>※ 諸般の事情により、日程や内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	特になし。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>【予習】1時間以上          ・あらかじめ、当日の授業テーマについて主体的に学修しておくこと。          【復習】1時間以上          ・毎回の授業後に課されるリアクションペーパーは成績評価の対象なので必ず期限内に提出する。          ・定期試験（期末レポートに代替する場合がある）に備えて、毎回の授業では学修内容を要約してノートなどにまとめる。          【参考文献】          ・市川秀之・中野紀和・篠原徹・常光徹・福田アジオ編著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房、2015年、2,800円＋税          ・その他の参考文献については、授業時に紹介する。          【資料】          ・その都度、配布する。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的にIC-UNIPAとIC-mailを使用します。          履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。          IC-UNIPAによる掲示や連絡なども必ず読んでください。</p>
<p>留意事項</p>	<p>授業終了後に作成するリアクションペーパーは、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）とともに成績評価の対象になります。毎回しっかりと取り組んで期限までに必ず提出してください。</p>

科目コード	14206	科目ナンバリング	CG20C13K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史A				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C F L		
関連資格	教職	AL要素	17 発問と回答 08 協同学修		
授業の概要					
この授業では江戸時代から幕末維新期までの歴史を「近世社会の異文化交流」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えながら深く学んでいく授業です。日本の歴史は、異文化との対峙なかで展開していきました。授業ではこれらの事例を学びながら、多文化共生の時代に対応するために不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。また、教職資格の取得を目指す学生にとっても、社会科（地歴）教員にとって重要な歴史的知見の獲得を目指します。（教職試験対策のための授業ではありません）					
キーワード					
近世史、四つの口、朝鮮通信使、地図、攘夷論					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。				
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。				
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象とはしない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組む。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： ガイダンス-「近世日本の異文化接触」- 第2回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」① -戦国時代の南蛮貿易とキリシタン政策- 第3回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」② -四つの口と管理貿易体制の確立- 第4回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」③ -日本型華夷秩序- 第5回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」④ -朝鮮通信使の概略- 第6回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑤ -朝鮮通信使と北関東- 第7回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑥ -朝鮮通信使と雨森芳洲- 第8回： 中間まとめ 第9回： 日本図から読み解く自他認識① -地図が作られることの意味- 第10回： 日本図から読み解く自他認識② -美術品から実用品へ- 第11回： 幕末の対外危機と「海防」論① -「幕末」への展開- 第12回： 幕末の対外危機と「海防」論② -水戸学- 第13回： 幕末の対外危機と「海防」論③ -攘夷論と開国論- 第14回： 幕末の対外危機と「海防」論④ -徳川政権における積極開国論- 第15回： 総括
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジュメに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し復習してください。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	履修者数があまりにも多い場合は、履修を制限する可能性があります。またその場合、初回の授業までに履修登録済みであり且つ出席した者を履修者とすることがあります。

科目コード	14207	科目ナンバリング	CG20C14K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史B				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C F L		
関連資格	教職	AL要素	17 発問と回答 08 協同学修		
授業の概要					
この授業では明治時代の歴史を「文明開化と対外戦争」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えてより深く学んでいく授業です。明治初期からはじまる日本の近代化は、文明開化という光の側面と対外戦争という陰の側面をもちながら進んで行きました。授業ではこれらの事例を学びながら、多文化共生の時代に対応するために不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。また、教職資格の取得を目指す学生にとっても、社会科（地歴）教員にとって重要な歴史的知見の獲得を目指します。（教職試験対策のための授業ではありません）					
キーワード					
文明開化、岩倉使節団、翻訳、征韓／台論、日清戦争					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。				
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。				
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象としない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組んでください。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： ガイダンス-文明開化と対外戦争- 第2回： 明治維新期の対外関係と「開国」-幕末の対外論からはじめる明治の対外関係- 第3回： 岩倉使節団と文明開化① -岩倉使節団の派出- 第4回： 岩倉使節団と文明開化② -岩倉使節団と留守政府- 第5回： 岩倉使節団と文明開化③ -岩倉使節団と木戸孝允- 第6回： 岩倉使節団と文明開化④ -岩倉使節団と伊藤博文- 第7回： 岩倉使節団の帰国と対外関 -征韓論と征台論- 第8回： 征韓論と征台論の行方① -明治六年政変- 第9回： 征韓論と征台論の行方② -江華島事件- 第10回： 近代化と翻訳語① -翻訳することの意味について- 第11回： 近代化と翻訳語② -翻訳語の今昔- 第12回： 日清戦争① -日清戦争についての先行研究- 第13回： 日清戦争② -日清戦争開戦にいたる軍の動向- 第14回： 日清戦争③ -開戦経緯と日清戦の意味について- 第15回： 総括
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジメに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し予習・復習を行って下さい（90分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	履修者数が多い場合には、履修を制限する可能性があります。またその場合、初回の授業までに履修登録済みであり且つ出席した者を履修者とすることがあります。

科目コード	14238	科目ナンバリング	GC10C07K	主な使用言語	日本語
授業名	ボランティア論				
担当者	鈴木 晋介				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F M L		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
1995年の阪神・淡路大震災、そして2011年の東日本大震災を経て、ボランティア活動の重要性の認識がますます深まるとともに、実践のフィールドも多様な広がりを見せているようになってきました。本講義では、ボランティア活動の思想の根本にある「自発性」・「非営利性」・「公共性」について歴史的背景とともに学び、国内外のさまざまなボランティア活動の実践事例にふれることで、「わたしたちができること」について考えていきます。なお、授業では映像資料を用いてボランティアの現場に関する理解を深め、みなさんひとりひとりが自分の力で考え、実践する心構えを養うことを目指します。自分なりの問題意識をもって授業にのぞむことが求められます。					
キーワード					
ボランティアの歴史・思想・実践、現代ボランティアのフロンティア					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ事項や現代ボランティアをめぐる諸問題に関して概ね80%を理解し解答することができる。				
評価方法	定期試験	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことができる。				
評価方法	リアクションペーパー	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が定期試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
ボランティア実績を評価対象とすることはない。ただしリアクションペーパーの記述において、授業で学んだことを種々のボランティア活動に活かしていこうとする強い意欲を受講者からうかがうことができる場合、あるいは授業を通じてボランティアの実践に向けた意思の形成が受講者に認められた場合、評価の対象としたい（上記リアクションペーパーと合わせて評価する）。					
評価割合	10%				
▼公正性					
リアクションペーパーに極端な偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス-ボランティア論とはなにか 第2回 ボランティアという言葉めぐって 第3回 ボランティアの定義 第4回 ボランティアの条件（1）3つの必要条件 第5回 ボランティアの条件（2）5つの要点 第6回 地域の課題を発見すること-参考資料読解 第7回 日本におけるボランティアの歴史（1）歴史のなかの「ボランティア的なもの」 第8回 日本におけるボランティアの歴史（2）近代以降における展開 第9回 日本におけるボランティアの歴史（3）1995年「ボランティア元年」以降 第10回 さまざまなボランティアの組織と用語 第11回 ボランティアの心理と動機-ひとはなぜボランティアをするのか 第12回 ボランティアの思想（1）「当事者性」の問題 第13回 ボランティアの思想（2）利他主義の向こう側へ 第14回 映像資料で考える国際ボランティア（1） 第15回 映像資料で考える国際ボランティア（2）
使用テキスト	授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	参考文献等は授業時に適宜提示します。ボランティア活動の要点のひとつに自発性というものがあります。ボランティアはひとに言われてやるものではありません。ただ身近なボランティア活動に参加してみると（大学にも様々なボランティアの募集があります）は、この講義を実感として理解することに資するでしょう。
障がいのある履修者への対応	可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。
授業時間外の連絡手段	必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。
留意事項	なし

科目コード	14249	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	法学 a				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	C		
関連資格	教職 福祉主	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法という、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。</p>					
キーワード					
法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	民法や刑法などの身近な法律をめくり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 法とは何か</li> <li>3 法の種類と存在形式</li> <li>4 法の段階的構造</li> <li>5 罪刑法定主義</li> <li>6 犯罪の成立要件 I</li> <li>7 犯罪の成立要件 II</li> <li>8 刑事手続の基本原理</li> <li>9 裁判手続の基本構造</li> <li>10 民法の基本構造 I</li> <li>11 民法の基本構造 II</li> <li>12 財産関係と法 I</li> <li>13 財産関係と法 II</li> <li>14 家族関係と法 I</li> <li>15 家族関係と法 II</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕(成文堂)2500円+税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	14249	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	法学 b				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等	C		
関連資格	教職 福祉主	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法という、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことから、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。</p>					
キーワード					
法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下での平等					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	民法や刑法などの身近な法律をめくり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができ					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 法とは何か</li> <li>3 法の種類と存在形式</li> <li>4 法の段階的構造</li> <li>5 罪刑法定主義</li> <li>6 犯罪の成立要件 I</li> <li>7 犯罪の成立要件 II</li> <li>8 刑事手続の基本原理</li> <li>9 裁判手続の基本構造</li> <li>10 民法の基本構造 I</li> <li>11 民法の基本構造 II</li> <li>12 財産関係と法 I</li> <li>13 財産関係と法 II</li> <li>14 家族関係と法 I</li> <li>15 家族関係と法 II</li> <li>16 定期試験</li> </ul>
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕(成文堂)2500円+税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	20003	科目ナンバリング	WP10C19K	主な使用言語	日本語
授業名	生命と倫理				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜6限	履修可能学科等		W	
関連資格	教職	AL要素	11. 討論 15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>本講義は「倫理」「倫理学」を扱う授業です。教科書には次のように書かれています。「なにが善いことなのか、正しいことなのか。善い、正しいとはどういうことか。私たちは生きていく途上で、こうした問いに出会う。これに応えようとするのは、誰もがいずれかの仕方で行っており、人の歴史のなかで繰り返し行われてきた。そうした営みのなかから、倫理学と呼ばれる学問領域が作られてきた」。本講義では、「倫理学に関心を持ち、これを学ぼうとするときに、その案内となるものを提供する目的で」編まれたこの教科書を用いて、参考となる文献を具体的に紹介しながら進めていきます。</p> <p>今年度は、「世代間倫理」、「自然中心主義」、「動物の権利」、「生命のはじまりと終わり」、「福祉と優生学」、「貧困と飢餓」の問題、そして「人生の意味」をめぐる諸考察を特に扱います。講義では、これらのトピックで扱われている倫理的諸課題並びにそれら諸課題を論じている思想家の思想を取り上げます。さまざまな考察を通して、私たちが今・ここから生きていくために、倫理的諸課題に対してどのようなアプローチをとることができるか探りましょう。本講義では、それぞれの論点をめぐって行われてきた議論を知ることによって視野を広げ、自由に考えることで、私たちが直面している問題に対して自分の意見をもつことができるようになることを目指します。</p>					
キーワード					
生命、倫理、人間、世代間倫理、自然中心主義、動物の権利、生命のはじまり、生命の終わり、福祉、優生学、貧困、飢餓、人生の意味、より良い生					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた倫理学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。				
評価方法	振り返り用紙	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 本講義で扱う領域について 第2回 世代間倫理 (1) 第3回 世代間倫理 (2) 第4回 自然中心主義、動物の権利 (1) 第5回 自然中心主義、動物の権利 (2) 第6回 生命のはじまりと終わり (1) 第7回 生命のはじまりと終わり (2) 第8回 福祉と優生学 (1) 第9回 福祉と優生学 (2) 第10回 レポートの書き方と研究倫理 第11回 貧困と飢餓 (1) 第12回 貧困と飢餓 (2) 第13回 人生の意味について (1) 第14回 人生の意味について (2) 第15回 人生の意味について (3)
使用テキスト	『倫理学案内—理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編、慶應義塾大学出版会、2006年。 ※授業で使用する資料は適宜配付します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる (90分)。</li> <li>・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい (90分)。</li> <li>・参考文献、資料は授業中に適宜紹介します。</li> </ul>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項

特になし。

科目コード	20004	科目ナンバリング	WP10C20K	主な使用言語	日本語
授業名	人間と哲学				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜6限	履修可能学科等		W	
関連資格	教職	AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>この講義では、「人間を社会的な存在として考えるという視点」（『哲学の歴史』8巻）が打ち出されるようになった19世紀のフランス、イギリスにおこった社会哲学を扱います。特に、『宗教生活の原初形態』でよく知られるフランスの思想家エミール・デュルケム、『道徳と立法の諸原理序説』で知られるジェレミー・ベンサム、そしてハーバート・スペンサーの思想を扱います。進歩、進化の概念が表れるこの時代の思想的潮流について、チャールズ・ダーウィン等の進化論の内容を押さえつつ、辿っていきます。</p> <p>これらの思想家たちは、同じ19世紀の哲学者ヘーゲル、マルクス、ニーチェといったドイツの思想家たちに比べて、日本においては、小粒の思想家という印象をもたれるかもしれませんが、その格付けは、「かならずしも世界共通のものとは言え」ません（『哲学の歴史』8巻）。また、彼らのなかには、大学で教えることを生業としなかったアマチュア思想家ならではの、ユニークな発想を見ることができます。「より敏感に社会の抱える問題やその変化の方向について感じ取り、それをもとに哲学の新方向を模索」（同書）した、彼らの思想に耳を傾け、私たちがここから考えだすためのヒントを探りましょう。</p>					
キーワード					
進歩、進化、進化論、社会、19世紀、フランス、イギリス、コント、デュルケム、ベンサム、スペンサー、ダーウィン、ペルクソン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。				
評価方法	振り返り用紙	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表明することができる。				
評価方法	レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不平等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業概要説明</p> <p>第2回 19世紀という時代</p> <p>第3回 コント：実証哲学、社会学、人類教</p> <p>第4回 19世紀フランス哲学の潮流、フランス・スピリチュアリズム</p> <p>第5回 デュルケム(1)：『社会分業論』、『自殺論』</p> <p>第6回 デュルケム(2)：『宗教生活の原初形態』</p> <p>第7回 ベンサム(1)：最大多数の最大幸福</p> <p>第8回 ベンサム(2)：『道徳と立法の諸原理序説』</p> <p>第9回 進歩と進化(1)</p> <p>第10回 進歩と進化(2)</p> <p>第11回 スペンサー(1)：総合哲学体系</p> <p>第12回 スペンサー(2)：スペンサーと日本</p> <p>第13回 ペルクソン(1)</p> <p>第14回 ペルクソン(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>
使用テキスト	『哲学の歴史 社会の哲学【18-20世紀】』第8巻、伊藤邦武編、中央公論新社、2010年。 ※授業で使用するテキストは適宜配付します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。</p> <p>授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。</p> <p>【参考文献】</p> <p>チャールズ・ダーウィン『種の起源』上、八杉龍一訳、岩波文庫、1990年。</p> <p>チャールズ・ダーウィン『種の起源』下、八杉龍一訳、岩波文庫、1990年。</p> <p>※参考文献・資料は授業中に適宜紹介する。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項

特になし。

科目コード	20006	科目ナンバリング	WP10C21K	主な使用言語	日本語
授業名	人権と教育				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>「義務教育」とは何でしょうか。子どもが学校に行かなくてはならない義務、と誤解されていませんか。子どもは学習の主体であり、自ら学ぶ権利があります。ですが、何を学ぶかは未知ですから、教育を受ける主体としての親が必要になります。すなわち、学校に行かせるのは親の義務なのです。しかし、親の職業や家庭の経済状況などにより、就学機会にも格差が生じかねないため、国が授業料を負担したり、教科書を無償提供したりして、財政的な支援により子どもを含めた家庭を支援しています。その一方、このような教育の機会均等は、一定限度の教育成果の獲得も必要とすると解釈されて、教育内容について国は、学習指導要領や教科書検定などを通じて介入する権限があると理解しています。その結果、家庭を中心とした私的な営みであった教育は、公教育の導入によって公的な営みに転化しており、さらに、地域に身近な分権的な作用を離れて、国を中心とした集権的な作用へと変容しています。そのような関係の中で、子どもや親と国（地方公共団体）を仲介していく教師にはどのような役割が期待されているのでしょうか。これから教員を目指す皆さん</p>					
キーワード					
憲法第26条、教育の機会均等、学習権、教育を受けさせる義務、親（教師）の教育権、国の教育権、教育委員会、学習指導要領、教科書検定、いじめ、不登校、少年法、児童虐待					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	学ぶ主体としての子どもの自由を法的にいかに保障するのか、また、権利の主体として子どもの意思をいかに尊重すべきなのかを、憲法の人権論や子どもの権利条約を通じて理解するとともに、教育をめぐる法制度と子ども、親および地域住民との関係について認識できる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	教育制度や教育法制を子どもを中心に理解できるとともに、教育の主体としての親の役割や地域住民との協働のあり方について自己の意見を持つことができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
教育において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身につける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
教育をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較衡量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 教育をめぐる法源</li> <li>3 憲法と教育基本法</li> <li>4 子どもと人権尊重</li> <li>5 子どもの権利条約</li> <li>6 学校の種類と設置者</li> <li>7 教職員の服務・義務</li> <li>8 いじめの背景と要因</li> <li>9 いじめの防止と対策</li> <li>10 不登校をめぐる動き</li> <li>11 不登校児童生徒支援</li> <li>12 親権と児童虐待防止</li> <li>13 児童虐待の防止対策</li> <li>14 教員免許と教員養成</li> <li>15 全体まとめ</li> <li>16 定期試験</li> </ol>
使用テキスト	古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。前学期開講の「教育と人権」とは異なりますのでご注意ください。教員志望の方を念頭に授業を行いますので、履修希望者が多い場合には、履修調整することがあります。

科目コード	20013	科目ナンバリング	WP10C16K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等	W F N L		
関連資格	教職 福祉主 社福士	AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
社会学の根本主題は、現実的・可能的な社会秩序はいかにして可能かという問いであるとされています（『岩波哲学・思想事典』）。また、社会とは、相互作用や協働によって生命体が維持される世界を意味し、人間のみならず、人間以外の動物や植物にも広くみられる現象のことです（同書）。人間社会において、私たちは豊かな文化を構築し経済活動を行っています。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みについて見ていきます。具体的なニュースも扱いつつ、社会的な事象を捉える方法を学んでいきます。					
キーワード					
社会学、エミール・デュルケーム、マックス・ウェーバー、人間と社会、個人と集団、家族、性、産業、労働、医療、社会問題、逸脱行動、格差、地域社会、メディア、国家と社会運動					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価し	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価し	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内で質問や発言を積極的行うなど、授業に積極的に参加してください。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 (1) 第3回 社会学の歴史 (2) 第4回 社会と「私」 第5回 家族と社会 第6回 性と社会 第7回 労働と産業 第8回 消費と社会 第9回 環境・災害社会学 第10回 医療と教育 第11回 逸脱行動と社会問題 第12回 格差 第13回 メディアと社会 第14回 国家と社会運動 第15回 振り返りと統括
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前に、各回で扱うテキストの該当箇所に目を通しておいてください（90分）。 ・授業後には、授業で得た知識を整理し、強く関心をもった箇所についてはその周辺の事象を積極的に調べ、期末レポート執筆のための準備をしておいてください（90分）。 ・参考文献および資料については、授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
留意事項	この授業では、新聞記事、ニュースなどを多く扱います。参加者にも日常的に新聞などを読むことを強くすすめます。

科目コード	21143	科目ナンバリング	WP11C08K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉I				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職 福祉主 社福士 福祉心理	AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答		
授業の概要					
<p>前期の「高齢者福祉I」では、高齢者に関する理解を中心に高齢者を取り巻く社会情勢の理解を深め、高齢者福祉の発展過程をたどる。高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらをもとに高齢者の生活実態を踏まえた、家族や地域社会の現状を理解し、介護サービスの実際の理解を深める。さらに介護保険制度の現状について、自ら考察できるように講義を進める。本講義に引き続き、後期開講の「高齢者福祉II」を継続して履修することが望ましい。</p>					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。				
評価方法	試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】授業オリエンテーション、高齢者の定義と特性  【第02回】高齢化率と高齢社会  【第03回】日本の高齢化の特徴と課題  【第04回】高齢者の生活実態  【第05回】高齢者世帯の特徴と課題  【第06回】家族介護の現状と課題  【第07回】高齢者観の変遷  【第08回】社会福祉前史と高齢者福祉  【第09回】老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行  【第10回】介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築  【第11回】高齢者福祉の理念  【第12回】介護保険制度と財政  【第13回】介護認定の仕組みと介護保険事業計画  【第14回】地域支援事業  【第15回】介護保険サービスの体系 前期のまとめ  試験</p>
使用テキスト	最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉 第2版 編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN 978-4-8243-0154-3
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	教科書は講義の他に試験でも使用するので必ず購入し、毎時間持参すること。

科目コード	21144	科目ナンバリング	WP12C06K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉II				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格	教職 福祉主 社福士 福祉心理	AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答		
授業の概要					
<p>前期開講の「高齢者福祉I」の履修し単位を修得した者を対象に高齢者福祉論を展開する。高齢者を取り巻く社会情勢を踏まえて 高齢者福祉の発展過程をたどる。老人福祉法や介護保険制度などを中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらを踏まえて、高齢者介護の実際に対する理解を深め、介護保険サービスの内容と今後の課題について自ら考察できるように講義を進める。</p>					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。				
評価方法	試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や厳重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 高齢者保健福祉の法体系 【第02回】 老人福祉法 【第03回】 高齢者医療確保法 【第04回】 高齢者虐待防止法 【第05回】 バリアフリー法 【第06回】 高齢者住まい法 【第07回】 高齢者雇用安定法 【第08回】 育児・介護休業法 【第09回】 市町村独自の高齢者支援 【第10回】 高齢者と家族等の支援における関係機関の役割 【第11回】 高齢者と家族等の支援における関連する専門職等の役割 【第12回】 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割 【第13回】 家族の介護負担軽減と就労支援 【第14回】 高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応 【第15回】 地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者  まとめ 試験</p>
使用テキスト	最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉 第2版編集 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN 978-4-8243-0154-3
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	* 講義は前期「高齢者福祉I」履修者を対象に開講する。 * 教科書に基づいて講義を進め、試験でも使用するので購入し毎時間持参すること。

科目コード	21158	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	刑事司法と福祉B				
担当者	高橋 活夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F M L		
関連資格	教職 社福士 福祉心理	AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>子どもや障害者、高齢者、女性など社会的弱者が関係する犯罪事件が、毎日のように報道されています。この授業では、罪を犯した社会的弱者の社会復帰や犯罪被害に遭った社会的弱者の支援について、その制度の成り立ちや仕組みを理解し、司法や福祉が連携しながら対応・支援していくことの重要性について学んでいきます。また、理解を深めるために、社会的弱者の関係する具体的な犯罪事件のケースを通して、支援の実際やその課題について考えていきます。</p>					
キーワード					
司法臨床 人間行動科学 立ち直り 環境調整 社会復帰 連携 権利 責任能力 日本型福祉社会					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	<p>①少年法と少年犯罪を取り巻く課題について理解します。          ②医療観察制度と精神障害者への社会的偏見とその支援について理解します。          ③高齢者・障害者の犯罪や社会復帰支援、被害支援について理解します。          ④アディクション（依存症）を抱えた者の社会復帰支援について理解します。          ⑤犯罪被害者や女性、子どもの暴力被害支援について理解します。</p>				
評価方法	学期末筆記試験、課題レポート	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	<p>授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。更に、実務現場で求められる要点を押さえた論理力、表現する力（口頭での説明、文章化）を身につけます。</p>				
評価方法	課題レポート、学期末筆記試験	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>直接の評価対象にはしませんが、主体的な修習による深まりが課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
<p>直接の評価対象にはしませんが、ボランティア活動などによって獲得された知識や理解が課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼公正性					
<p>直接の評価対象にはしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。</p>					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション～司法と福祉～          第2回：少年司法          第3回：少年の施設内処遇          第4回：少年事件と実名報道          第5回：少年事件と死刑判決          第6回：精神障害者と医療観察制度          第7回：精神障害者と事件報道          第8回：高齢者・障害者の犯罪・非行と支援          第9回：犯罪に巻き込まれる障害者          第10回：高齢者の犯罪と支援          第11回：アディクションを抱える人と刑事司法          第12回：犯罪被害者等支援          第13回：女性等の暴力被害支援          第14回：子ども虐待と刑事事件          第15回：まとめと今後の課題          定期試験</p>
使用テキスト	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「10 刑事司法と福祉」』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規、2021年、2970円
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや事前配布資料を読み、分からない用語や個所を明らかにしておいてください。          授業後は、分からなかったところについて明らかにし、質問してください。分からないままにしないでください。普段から子どもや障害者、高齢者、女性などに関する犯罪事件に関心を持ち、調べてください。          参考文献は以下のものです。          『自閉症裁判 レッサーパンダ帽の「罪と罰」』佐藤幹夫、朝日文庫、2008年、1100円＋税          『刑務所しか居場所のない人たち』山本謙司、大月書店、2018年、1500円＋税          『少年法入門』廣瀬健二、岩波新書、2021年、902円          『記者がひもとく「少年」事件史』川名壮志、岩波新書、2022年、860円＋税          その他参考文献を、授業で提示します。</p>
障がいのある履修者への対応	障がいに応じて可能な限り適切に対応します。
授業時間外の連絡手段	IC-Mailにて連絡ください。IC-Mail、若しくは授業の前後に直接返答します。

留意事項

特になし

科目コード	41042	科目ナンバリング	MA22C03K	主な使用言語	日本語
授業名	マーケティング論II				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
1950年代に体系化された伝統的なマーケティングの理論枠組みは、その後、1970年代にはソーシャル・マーケティング、さらには1980年代以降、サービス・マーケティング、リレーションシップ・マーケティング、生産財マーケティングへとその領域を拡張してきた。最近では、グローバル化の進展やインターネットの普及によって、グローバル・マーケティングやデジタル・マーケティングといった領域も台頭している。本科目では、そのような拡張されたマーケティング領域について解説する。					
キーワード					
戦略的マーケティング, 経営資源, マーケティングの拡張					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたマーケティングの拡張領域に関する基本的な理論枠組みについて、概ね80%の事項を理解し、説明することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、実際の企業活動を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 イン트로ダクション 第02回 基本戦略 第03回 製品ライフサイクル戦略 第04回 市場地位別戦略 第05回 事業領域と成長戦略 第06回 資源展開 第07回 ブランド 第08回 関係性マーケティング 第09回 サービス・マーケティング 第10回 生産財マーケティング 第11回 グローバル・マーケティング 第12回 ソーシャル・マーケティング 第13回 デジタル・マーケティング 第14回 マーケティング理論の再構築 第15回 まとめ
使用テキスト	黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ [第3版]』有斐閣, 2023年, ISBN: 978-4641177321, 2,420円 (税込み)。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業時に配布したレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41043	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	流通システム論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
我々の日常生活は、無意識に流通と深く関わっている。消費者の消費行動や消費文化は、流通が下支えしている。そこで本科目では、わが国の流通システムを構成しているさまざまな小売業態について観察し、過去から現在への変遷を辿りながら、それらの小売業態の特徴を理解する。また、流通システムは時代の流れと共に常に変化していることから、小売業態だけでなく卸売業者や取引慣行も含めて、それらがどのように変化していくのか、担当教員の実務経験を活かしながら将来を展望する。					
キーワード					
流通システム, 流通フロー, 卸売業者, 小売業者, 業態					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	わが国の流通に関する理論的枠組みを理解できる。具体的には、主要な業態を概観した上で、わが国の流通構造の変化を理解できる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	わが国の流通構造の背景や流通を取り巻く現在のマクロ環境を踏まえた上で、さまざまな小売業態の将来のあるべき姿を描いたり、今後の流通構造の変化を見通したりすることができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 流通とは 第02回 百貨店と総合スーパー 第03回 食品スーパーとコンビニエンス・ストア 第04回 ディスカウント・ストアとSPA 第05回 商店街とショッピングセンター 第06回 小売業態とは何か 第07回 小売を支えるロジスティクス 第08回 インターネット技術と新しい小売業態 第09回 小売を支える卸 第10回 流通構造とその変容 第11回 日本的取引慣行 第12回 小売を中心とした取引慣行 第13回 売買集中の原理と品揃え形成 第14回 商業とまちづくり 第15回 製販連携の進展
使用テキスト	石原武政・竹村正明・細井謙一 編著『1からの流通論(第2版)』碩学舎, 2018年, ISBN: 978-4502283611, 2,400円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	テキストの他、適宜、参考資料としてプリントを配布する。授業時に配布したプリントは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考書等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41044	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	流通経営論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
小売業は、流通構造の末端に位置し、消費者の嗜好や購買行動の変化に柔軟に適合していくことで成長し続けている。小売業者は、新たな業態の開発のために、常に、立地、マーチャライジング、プロモーションといったマーケティング・ミックスを調整している。本科目では、前半では小売業の業態開発に関する理論的枠組みについて概説し、後半では近年の新しい小売業態とビジネス・モデルについて考察する。					
キーワード					
小売業態, リテール・マネジメント, マーチャライジング, サプライチェーン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた小売業経営に関する基本的な理論的枠組みについて、概ね80%の事項を理解し説明することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、特定の小売業態を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 流通フローと流通機関 第02回 小売業の新業態開発 第03回 立地選択と出店戦略 第04回 仕入活動の管理 第05回 インストア・プロモーション 第06回 延期と投機の原理 第07回 POSシステム 第08回 サプライチェーン・マネジメント 第09回 小売業の商品開発 第10回 小売業の海外進出 第11回 ドラッグストア 第12回 均一価格店 第13回 BtoC-ECとオムニチャネル 第14回 デジタル・プラットフォーム 第15回 まとめ
使用テキスト	テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	前期の流通システム論を同時に履修することを推奨する。授業時に配布するレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業時に配布するレジュメの中で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41050	科目ナンバリング	MA20C11K	主な使用言語	日本語
授業名	会社簿記論				
担当者	竹内 翼				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	16, 17		
授業の概要					
<p>本講義では、財務会計の基礎となる商業簿記を学習します。前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目的とします。応用簿記論が各種取引を取り扱っていたことに対し、「会社簿記論」では、株式会社における純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を取り扱います。応用簿記論に引き続き、講義では仕訳を習得することを重視しますが、会社法等の法制度への理解や組織構造への理解も必要となります。社会環境の高度化に伴い、企業を取り巻く環境が複雑になっているためです。講義は、テキストに沿って各取引の解説を行い、その都度、基本問題を解く形で進めていきます。簿記は、講義を聞くだけでは修得できず問題演習を通じて理解が高まるため、積極的に問題を解くことを推奨します。</p> <p>※授業計画は、授業の進行状況や学生の理解度に応じて変更する場合があります。  ※実際の日商簿記検定2級では、工業簿記も試験範囲となっているため、合格を目標とする場合は別途工業簿記を学習することが望ましいです。  ※税理士業務・元銀行員の実務経験を活かし、必要に応じて会計・税務・経営の事例を紹介しながら理解を深めていきます。</p>					
キーワード					
純資産、会社設立、開業、増資、合併、剰余金の処分、配当金、資本準備金、利益準備金、繰越利益剰余金、法人税、住民税及び事業税、消費税等、為替差損益、税効果会計、連結会計					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目標とする。				
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	株式会社特有の純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を仕訳で理解する。また、このような仕訳を通して、株式会社のしくみまで理解できるようになる。結果として財務諸表の数値を読める思考力が身につく。				
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしないが、自身の活動等により深められた知見等が授業内や学期末試験等を通じて認められる際には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、講義を通じて著しく公正性を欠く言動・不正行為があった際は、減点や厳重注意の対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第01回】 ガイダンス、株式会社の純資産①-意義、設立・開業 【第02回】 株式会社の純資産②-増資、剰余金の処分等 【第03回】 株式会社の純資産③-会社の合併、株主資本以外の純資産 【第04回】 税金①-法人税、住民税および事業税 【第05回】 税金②-消費税等の処理 【第06回】 外貨建取引 【第07回】 税効果会計 【第08回】 本支店会計①-意義、本支店間取引の処理等 【第09回】 本支店会計②-本支店会計における決算手続 【第10回】 連結会計①-意義、資本連結 【第11回】 連結会計②-非支配株主持分等 【第12回】 連結会計③-連結会社間取引の処理等 【第13回】 連結会計④-連結精算表 【第14回】 連結会計⑤-連結財務諸表の作成 【第15回】 総括 定期試験
使用テキスト	編著者 渡部裕巨他『検定簿記講義／2級商業簿記〔2025年度版〕』『検定簿記ワークブック／2級商業簿記』（前期科目「応用簿記論」と同一のテキストを使用） ※なお、新年度版が出版された場合には、新年度版を購入すること。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前にテキストの閲覧を行い、講義後に復習を実施する必要がある。比重は復習におくのがよい。講義を通じて得た理解が忘却する前に問題を解くことが肝要である。 標準的には、復習60分が目安となる。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	必要に応じて、授業時にお知らせします。

留意事項

電卓を必ず用意すること。可能であればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード	41063	科目ナンバリング	MA20C14K	主な使用言語	日本語
授業名	金融論				
担当者	浅川 あや子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F N M L		
関連資格		AL要素	ディスカッション, 小テストの回答, リアクションペーパーの執筆		
授業の概要					
本講義では, 我々の生活に身近でありながらなんとなく分かりにくい金融について, 系統立てて学んでゆきます。金融の担い手である銀行や証券会社の役割, 金融市場や株式市場の仕組みとその働き等について解説します。授業の後半では, 日本における過去の金融政策を取り上げ, その成否や功罪, 教訓について学びます。					
キーワード					
金融, 金融市場, 債券市場, 銀行, 証券会社, 外国為替市場, 金融政策, 日本銀行, 金融危機					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	金融市場の働き(株式市場, 債券市場, 外国為替市場)や金融政策と日本銀行の役割等について, 概ね80%理解し, 解答することができる。				
評価方法	筆記試験, 小テスト, リアクションペーパーの執筆	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業後, IC-UNIPAのクラスプロファイル中の「テスト管理」にアップした小テストを受けること。ディスカッションの後にリアクションペーパーを提出してもらいます。小テストは授業の復習になります。リアクションペーパーを執筆することで, 自分の考えを整理することができます。				
評価方法	小テスト(約7回), リアクションペーパー約2回	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし, 自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には, 上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし, ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には, 上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし, 授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には, 減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 授業案内(授業の目的, 授業の進め方, 成績評価の方法について説明する) 第2回 金融とは何か? 第3回 銀行, 証券会社の役割 第4回 金融市場の働き(1) 1. 短期金融市場 2. 債券市場 第5回 金融市場の働き(2) 株式市場 第6回 金融市場の働き(3) 1. 外国為替市場 2. 新しい金融の芽生え 第7回 まとめとディスカッション 第8回 金融政策と日本銀行の役割 第9回 インフレとデフレ 第10回 アベノミクスと金融政策 第11回 郵政民営化 第12回 バブル崩壊と金融危機の発生(1) 第13回 バブル崩壊と金融危機の発生(2) 第14回 まとめとディスカッション 第15回 授業内テスト
使用テキスト	テキストは使用しない。授業で使用する資料はIC-UNIPAのクラスプロファイルの「授業資料管理」に事前にアップするので, ダウンロードして読んでおくこと。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前に配布資料を読んでおくこと(60分)。 ・授業後, IC-UNIPAのクラスプロファイルの「テスト管理」にアップしてある「小テスト」を実施する(30分)。 配布資料に基づき, 授業の復習をする(30分)。  参考文献: 日本経済新聞社編『金融入門 第3版』(2014年)日本経済新聞出版社 中島真志・島村高嘉著『金融読本』第32版(2023年)東洋経済新報社  日頃から金融に関するニュースや新聞の金融に関する記事を読むように心がけてください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mailアドレスをお願いします。 asakawa_ayako@icc.ac.jp

## 留意事項

「マクロ経済学入門」と「ミクロ経済学入門」を履修済みであることが望ましい。

科目コード	41064	科目ナンバリング	MA20C15K	主な使用言語	日本語
授業名	国際金融論				
担当者	浅川 あや子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	ディスカッション, 小テストの回答, リアクションペーパーの執筆		
授業の概要					
本講義では、我々の生活に身近でありながらなんとなく分かりにくい国際金融について、系統立てて学んでゆきます。外国為替取引や為替レートについて、また国際収支とは何なのか等について詳しく解説します。授業の後半では、アジアやヨーロッパ、そしてアメリカで起こった金融危機や通貨危機を取り上げ、そうした危機が発生した要因や教訓について学びます。					
キーワード					
外国為替取引, 為替レート, 変動相場制, 固定相場制, 国際収支, 欧州通貨統合, ユーロ, ドル, 国際金融センター, IMF, 世界銀行, 債務危機, 金融危機					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	外国為替取引と為替レート, 国際収支, 国際金融センターの働き等について, 概ね80%理解し, 解答することができる。				
評価方法	筆記試験, 小テスト, リアクションペーパーの執筆	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業後, IC-UNIPAのクラスプロファイルの中の「テスト管理」にアップした小テストを受けること。ディスカッションの後にリアクションペーパーを提出してもらいます。小テストは授業の復習になります。リアクションペーパーを執筆することで, 自分の考えを整理することができます。				
評価方法	小テスト(約7回), リアクションペーパー約2回	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 授業案内(授業の目的, 授業の進め方, 成績評価の方法について説明する)</p> <p>第2回 金融とは何か?</p> <p>第3回 銀行, 証券会社の役割</p> <p>第4回 外国為替取引と為替レート(1) 円高, 円安とは</p> <p>第5回 外国為替取引と為替レート(2) 固定相場制から変動相場制へ</p> <p>第6回 国際収支とは何か?</p> <p>第7回 まとめとディスカッション</p> <p>第8回 世界の中央銀行 ー日本銀行の役割ー</p> <p>第9回 欧州の通貨統合と「ユーロ」</p> <p>第10回 金融取引の国際化と国際金融センター</p> <p>第11回 IMF, 世界銀行の役割とアジア通貨危機</p> <p>第12回 ギリシアの債務危機とユーロ危機の拡大</p> <p>第13回 リーマンショックから世界金融危機へ</p> <p>第14回 まとめとディスカッション</p> <p>第15回 授業内テスト</p>
使用テキスト	テキストは使用しない。授業で使用する資料はIC-UNIPAのクラスプロファイルの「授業資料管理」に事前にアップするので、ダウンロードして読んでおくこと。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前に配布資料を読んでおくこと(60分)。</li> <li>授業後, IC-UNIPAのクラスプロファイルの「テスト管理」にアップしてある「小テスト」を実施する(30分)。</li> <li>配布資料に基づき, 授業の復習をする(30分)。</li> </ul> <p>参考文献: 日本経済新聞社編『金融入門 第3版』(2014年)日本経済新聞出版社 中島真志・島村高嘉著『金融読本』第32版(2023年)東洋経済新報社</p> <p>日頃から金融に関するニュースや新聞の金融に関する記事を読むように心がけてください。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mailアドレスをお願いします。 asakawa_ayako@icc.ac.jp

## 留意事項

「マクロ経済学入門」と「ミクロ経済学入門」を履修済みであることが望ましい。

科目コード	41085	科目ナンバリング	MA20C19K	主な使用言語	日本語
授業名	公共経営論				
担当者	野口 通				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	月曜4限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F N M L		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>本授業は、公共経営の中で重要な位置を占める地方行政について実践的な視点から学ぶ「実践的的地方行政論」である。地方自治体がどのような課題に対しどのように政策を立案し実施しているのか、その過程で直面する困難をどう乗り越えているのかなどを具体的に学ぶ。実例としては、担当者の経験の他、今の動きを捉えた新聞記事などを取り上げる。何が行われているかという事実を知るだけでなく、なぜそのようなことが行われているのかの理解を重視する。また、自ら地域振興のための課題を分析し具体的な対応策について考える機会を提供する。</p> <p>なお、授業担当者は長年茨城県庁の最前線において、新規事業の企画・実践を含む様々な業務に携わってきた。その実務経験を活かし、</p>					
キーワード					
地方行政、地方自治体、公共、首長、議会、財政、計画、地域振興、土地利用、街づくり、交通政策、人口減少					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた地方行政の仕組みや自治体の実践例について、基本的な事項を理解し説明することができる。				
評価方法	授業後のレポート	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を明確に表現することができる。				
評価方法	授業後のレポート、学期末レポート	評価割合	60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、調査や考察等に時間をかけるなど、自主的な学修に積極的に取り組んだことが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、地域におけるボランティア活動等により、本授業のテーマに関わる実践的な知見が深まっていることが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の進行や他の学生の学習を妨げる言動、差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>15回の授業で取り上げる内容は概ね次の通り。</p> <p>イントロダクション 自治体と地域振興 地域振興とは何か 地域を元気にするために自治体は何をすればいいのか 自治体による地域振興策の実際 観光、地元産品 産業振興（企業誘致、ベンチャー育成を含む） 拠点形成と土地利用 街づくり 交通政策 人口減少、少子化・高齢化対策 文化 計画行政：計画の必要性、様々な計画、計画の立て方 まとめ これからの地方行政。地域をもっと元気にするために必要なこと。 自分が地方行政関係者（首長/議員/自治体職員）だったら今何をすべきか。</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は教室で投影する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>予習：随時、自ら調べたり考えたりすることが望ましい事項を伝え、参考資料がある場合は提示するので、それらに基づき準備の上、授業に臨んで欲しい。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分が当事者だったらどうか等を考えて欲しい。</p> <p>参考文献： 曾我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社、2019 大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』第一法規株式会社、2021</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。アドレスは初回の授業でお知らせします。
留意事項	タブレットやスマホなどのデバイスの持参を推奨します。

科目コード	41102	科目ナンバリング	MA30C13K	主な使用言語	日本語
授業名	国際経済論				
担当者	浅川 あや子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	グループディスカッション、小テストの回答、リアクションペーパーの執筆		
授業の概要					
本講義では、日本経済を理解するために必要不可欠な国際経済について、できるだけ分かりやすく解説します。授業の前半では、外国為替取引や為替レート、国際貿易の基本的構造、自由貿易や海外直接投資といった基本的項目を学びます。授業の後半では、アメリカ経済、中国経済、ヨーロッパ経済等について具体的に学びます。 第8回には、授業に関連した映像資料を視聴した後にリアクションペーパーを書いてもらいます。					
キーワード					
外国為替取引、国際貿易、自由貿易、海外直接投資					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	外国為替取引や為替レート、国際貿易や自由貿易、海外直接投資、そして各国経済について概ね80%理解し、解答することができること。				
評価方法	筆記試験、小テスト、リアクションペーパー	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業後、IC-UNIPAのクラスプロファイルの中の「テスト管理」にアップした小テストを受けること。また第8回では、DVD視聴後にリアクションペーパーを書いて提出してもらいます。 小テストは授業の復習となります。 リアクションペーパーを書くことで、映像資料への理解が深まります。				
評価方法	小テスト：約7回、リアクションペーパー：約2回	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験やリアクションペーパー等の記述に認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中等において著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 授業案内（授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法について説明する）</p> <p>第2回 世界の中の日本</p> <p>第3回 外国為替取引と為替レート（1） 円高、円安とは？、（2） 固定相場制から変動相場制へ</p> <p>第4回 国際収支とは何か？</p> <p>第5回 国際貿易の基本的構造</p> <p>第6回 自由貿易の優位性とは？</p> <p>第7回 直接投資と企業のグローバル展開</p> <p>第8回 「岐路に立つ日本の家電メーカー」（DVD視聴、リアクションペーパー）</p> <p>第9回 アメリカ経済の現状と課題</p> <p>第10回 中国経済の現状と課題</p> <p>第11回 アジアNIESとASEANの経済</p> <p>第12回 ヨーロッパ経済とEU、ユーロ</p> <p>第13回 ロシア経済の変遷と課題</p> <p>第14回 まとめとディスカッション</p> <p>第15回 授業内試験</p>
使用テキスト	テキストは使用しない。授業で使用する資料はIC-UNIPAのクラスプロファイルの「授業資料管理」に事前にアップする。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に配布資料を読んでおくこと（60分）。</li> <li>・授業後、IC-UNIPAのクラスプロファイルの「テスト管理」にアップしてある「小テスト」を実施する（30分）。配布資料に基づき、授業の復習をする（30分）。</li> </ul> <p>参考文献： 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』改訂3版（1989年）日本経済新聞社出版社 野口悠紀雄『世界経済入門』（2018年）講談社現代新書 伊藤元重『どうなる世界経済 入門 国際経済』（2016年）光文社新書</p> <p>日頃から国際経済に関するニュースや新聞の経済・国際関係の記事を読むよう心掛けてください。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mailアドレスをお願いします。 asakawa_ayako@icc.ac.jp

## 留意事項

「マクロ経済学入門」と「ミクロ経済学入門」を履修済みであることが望ましい。  
小テストについては、次の授業で簡単な講評を行います。

科目コード	41131	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	企業倫理				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等		E Pe Pc C W F N M L	
関連資格		AI要素	11. 討論 15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
本講義では、「社会の中において、企業はどうあるべきか、どう行動すべきか」（高巖『マネジメント・テキスト ビジネスエシックス [企業倫理]』日本経済新聞出版社、2013年）を基本テーマとして、「倫理学はビジネスをどのように見てきたのか」（『ビジネス倫理学 哲学的アプローチ』田中朋弘・柘植尚則編、ナカニシヤ出版、2004年）を整理し、企業の歴史、企業の倫理的課題、企業倫理の制度化というトピックを中心に扱います。知識を獲得していくなかで、現在のビジネスにおける倫理的諸課題とその解決に向けて、自分の意見を持てるようになることを目指します。この授業では、新聞やニュースも扱い、自分たちの社会の現在地とその方向を試みに予測しながら、大学生としての学びの習慣を身につけられるよう工夫してすすめます。					
キーワード					
企業倫理、企業、倫理学、アダム・スミス、ジョン・スチュアート・ミル、企業における倫理的諸課題、環境問題、内部告発、内部通報、コンプライアンス、AI倫理					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた企業倫理に関する基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べるができる。				
評価方法	振り返り用紙	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 企業倫理について この授業で扱う範囲</p> <p>第2回 企業の歴史(1)</p> <p>第3回 企業の歴史(2)</p> <p>第4回 倫理学とビジネス(1) アダム・スミス</p> <p>第5回 倫理学とビジネス(2) アダム・スミス</p> <p>第6回 倫理学とビジネス(3) ジョン・スチュアート・ミル</p> <p>第7回 倫理学とビジネス(4) ジョン・スチュアート・ミル</p> <p>第8回 企業の倫理的課題(1)</p> <p>第9回 企業の倫理的課題(2)</p> <p>第10回 レポートの書き方と研究倫理 期末レポートを書く際の注意事項を確認する</p> <p>第11回 企業倫理の制度化(1)</p> <p>第12回 企業倫理の制度化(2)</p> <p>第13回 AI倫理(1)</p> <p>第14回 AI倫理(2)</p> <p>第15回 まとめと考察</p>
使用テキスト	・ 授業で使う関連資料は、授業中に配付します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【予習・復習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。</li> <li>・ 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <p>高巖、トーマス・ドナルドソン『ビジネス・エシックス—企業の市場競争力と倫理法令遵守マネジメント・システム—』文真堂、1999年。</p> <p>高巖『マネジメント・テキスト ビジネスエシックス [企業倫理]』日本経済新聞出版社、2013年。</p> <p>吉森賢『企業統治と企業倫理』放送大学教育振興会、2007年。</p> <p>『ビジネス倫理学 哲学的アプローチ』田中朋弘・柘植尚則編、ナカニシヤ出版、2004年。</p> <p>・ここに挙げたもの以外の参考文献・資料は授業中に紹介します。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回授業時にお知らせします。
留意事項	課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード	41133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	中小企業経営論				
担当者	椎名 則夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日時限	火曜5限	履修可能学科等	E Pe Pc C W F N M L		
関連資格		AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
日本経済の基盤を支える中小企業について、その現状、課題、および潜在力を多角的に理解する。特に、成長戦略、DX・GX、イノベーション、グローバル化、事業承継などの今日的論点を学ぶ。さらに、産業活性化の観点で注目を集めるスタートアップについて概観する。これらを通じて、中小企業のさまざまな課題に対して主体的に解決策を見出すことができるための基礎力を身につけ、事業プランの策定に着手できるようになることを到達目標とする。					
キーワード					
中小企業経営 事業承継 スタートアップ ビジネスモデルキャンパス					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	中小企業の現状・課題・潜在力などを授業で解説を受けた概念・枠組みを用いて理解したうえで、授業で扱うビジネスモデル構築の枠組みをベースにし、概ね80%適確に自らが考えるビジネスプランの策定ができること。				
評価方法	学期末レポート課題	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱う概念・枠組みを用いて、課題となる事例を分析し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポートおよびプレゼンテーション。各人お気に入りの起業家・事業化について調査・分析し、プレゼンテーションをしていただく予定です。	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
出席状況を含めた授業態度。発表・発言などで積極的に授業に貢献した場合は10%程度の加点を行う。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第01回 ガイダンス データで見る日本の中小企業（中小企業白書のデータを俯瞰し、大企業との比較および産業構造の視点から中小企業の特性を把握する）</p> <p>第02回 中小企業の戦後の歩みと政策（戦後の中小企業の発展を1980年代までと1990年代以降に分けて整理し、あわせて中小企業政策の変遷をおさえる）</p> <p>第03回 中小企業の存立原理（大企業の規模の経済の範囲外、不完全競争、企業・事業のライフサイクルとディスラプターとしての新興企業など、中小企業の存立を説明する経済学的視座を整理する。さらに大企業との取引関係についても触れる）</p> <p>第04回 職場としての中小企業（経営者のインセンティブ、従業員の賃金・待遇、専門化と多能工化、独立などに関して大企業との比較を踏まえて中小企業の特徴を整理する）</p> <p>第05回 中小企業の金融（収益性、財務体質、取引先との資金繰り関係、銀行との関係、公的金融支援、フィンテックの役割、経営者保証などを取り上げる）</p> <p>第06回 中小企業の事例 製造業編（大田区・東大阪などの産業クラスター、海外展開などの紹介を予定）</p> <p>第07回 中小企業の事例 非製造業編（大店法・フランチャイズシステムなど外部環境の整理と事例紹介を予定）</p> <p>第08回 中小企業と社会課題（DX、GX、待遇、少子高齢化、グローバル化、イノベーションなどの諸点で中小企業に期待されることを整理する）</p> <p>第09回 事業承継I（過剰債務ないし後継者難に直面する中小企業の現状を理解し、廃業・事業譲渡&lt;M&amp;A&gt;・EBOなどの選択肢を整理する）</p> <p>第10回 事業承継II（事業承継を促進する助言・金融・法務などの事業者を紹介し、事業承継を成長戦略にすえる企業を分析する）</p> <p>第11回 スタートアップI（スタートアップを定義し、その今日の特徴を整理する。次にスタートアップの成長ステージを整理し、内外のユニコーンと呼ばれる企業を紹介する）</p> <p>第12回 スタートアップII（スタートアップをサポートするエコシステムを紹介し、スタートアップで一般的に考えられるビジネスモデルキャンパスの考え方を学ぶ）</p> <p>第13回 新興企業事例I（上場に至りさらに成長を続ける企業を事例にビジネスモデルキャンパスを適用して分析し、その成功要因や重要なKPIを抽出する；2020等を予定）</p> <p>第14回 新興企業事例II（第14回に続き、メルカリ等を分析する予定）</p> <p>第15回 中小企業の将来展望、まとめ、Q&amp;A</p> <p>各人、プレゼンテーションをしていただく予定です。 また可能な限り、スタートアップに勤務する社会人の方に、オンライン等でプレゼンテーションをしていただく予定です。 授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。</p>
使用テキスト	<p>特定のテキストを使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。中小企業庁による中小企業白書は基本文献として適宜熟読してください。</p> <p><a href="https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html">https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html</a></p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習においては、レジюмеに目を通し疑問点などを整理して授業に臨んでください。 復習においては、講義のまとめを随時していただくとともに、課題がある場合は都度期限までに提出してください。</p> <p>参考文献 『よくわかる中小企業』関智宏編著 ミネルヴァ書房 2020年 『中小企業・スタートアップを読み解く 伝統と革新、地域と世界』加藤厚海 福嶋路 宇田忠司著 有斐閣ストゥディア 2023年 『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る 第4版』渡辺幸雄 小川正博 黒瀬直宏 向山雅夫著 有斐閣アルマ 2022年 『日本の中小企業 少子高齢化時代の起業・経営・承継』関満博著 中公新書 2017年</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに対応します。連絡方法は初回の授業でお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>日頃から経済ニュースに触れ、気になる企業に出会った場合は深掘りするように心がけてください。</p>